

2013年度  
青雲会病院年報  
【第8号】



医療法人青雲会

# 理 念

何か 世の為 人の為

## 基 本 方 針

1. 「何か世の為 人の為」の理念のもと救急医療をおこなう
2. 「最期は青雲会病院で」と言われる病院作りを目指す

## 2014年、国防について

医療法人青雲会  
理事長 川井田浩

昨今、中国の東シナ海における過激な行動や南シナ海でのベトナム、フィリピンとの紛争など、中国の海洋進出に伴う衝突事案が頻発している。国会では自衛権の行使や集団的自衛権について戦争に子や孫を狩り出すのかとか、自分の国を自分で守らないで誰が守るのかといった国防の議論が国論を二分してかまびすしい。韓国は歴史認識で日本を攻撃しているが、過去の世界の歴史を紐解いて、我が国の在り方を考察してみたいと思う。

加来彰俊著、プラトンの弁明によれば、古代ギリシャでは戦争に負ければ成年男子は皆殺しにされ、女、子供は奴隷にされ他国に連れて行かれるのがきびしい現実であったという。それゆえ、自由とはまずなによりも祖国の独立、自分の住んでいる国の存立なくしては考えられないわけである。ソクラテスは人生とはただ生きるだけではなく、いかによく生きるかであると述べているが、ただ生きるだけが問題になる状況（戦争、隷属、飢餓）では人生そのものがふっとんでしまう事になる。

第三次ポエニ（フェニキア）戦争でカルタゴは古代ローマ帝国に滅ぼされ、その民族は消滅し、その地は草木一本生えない様に塩をまかれたという。カルタゴは当時貿易で栄えていたが、自分の国を自分で守るという概念が薄く、金で雇った傭兵に国防を頼っていた。（極端な言い方をすれば日米安保条約下の日本が該当しなくもない）

貿易紛争が起因となり、3度のポエニ戦争のあげく、ハンニバルの敗戦により第三次ポエニ戦争で国家が消滅した。現代において中国共産党によるチベットやウイグルにおける民族浄化策等は国防の必要性をいやと言う程痛感させる事例ではなかろうか。反日教育による中国国民の我が国に対する嫌悪感は、太平洋戦争と無関係な我々の世代に対しても異常なまでにかきたてられている様だが、一朝事あらば貿易立国日本が、中国が民主化されないかぎり、カルタゴの道をたどらないとは言いきれない。

プラトンは民主制が善と定めているものは自由であり、言論の自由を含めて誰でもしたいと思う事をする事が出来るし、自由に好きな様に暮らしをたてて良いとし、アリストテレスも人が自分の好きな様に生きることが自由であると規定している。しかし、田中美知太郎は「自由の自己矛盾」として、

自由の無制限な追及は、自由そのものの否定になる事を明らかにしている。その要諦は、仮に一つの自由な社会があるとし、その社会ではあらゆる自由が許されるとすると、自由な社会そのものを否定する自由も含まれていることになる。

その結果、自由そのものを否定する言論、思想、行動の一切が許される事になり、自由な社会が否定され、自由はなくなるというわけである。プラトンは過度な自由は過度な専制を生むという。従って真の自由とは法治ないしは遵法のことであると加来彰俊は述べているが、理解出来る考え方である。従って、この自由な民主主義の日本においてこの国を維持する事が経済優先だけで良いのだろうか。日本をとりまく周辺国の状況を考えるならば、憲法9条が定めている国権の発動たる戦争と武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては永久にこれを放棄する。

前項の目的を達するため陸海空軍その他の戦力はこれを保持しない。国の交戦権はこれを認めない。という事は無防備でしかも相手の攻撃に対しても戦わないという事であれば、容易に日本国は占領され、大多数の国民は収容所送りとなり、洗脳教育を受けるはめにならないのだろうか。これからは法の解釈を都合よく捻じ曲げるのではなく、法治国家として、堂々と憲法を改正して、国防をタブーとせず国是とすべきではなかろうか。

国防にあたる人々をおとしめる事なく、処遇を含めて感謝の念を表すべき時が来ていると考えるが、いかがであろうか。

## マラソンと折れない心

医療法人青雲会 青雲会病院院長  
島内 正樹

例年の挨拶は、いつも堅苦しいものでしたので、今年は私の趣味について書いてみたいと思います。

私は 8 年前からランニングを始めました。それまでいろんなスポーツをしていましたが、ランニングはあまり好きではありませんでした。きっかけになったのは、ちょうどその頃、旧青雲病院の院長職を命じられ、その重圧感から解放されたいがために、晩酌のビールの量が増えてきたことです。しかし酒を飲んでも少しもおいしく感じる事はなく、どうせ飲むならおいしい酒を飲みたいと思い、走って汗をかいた後に冷えたビールを飲むことにしたのです。最初は 1km も十分に走れませんでした。それでも汗をびっしょりかいた後のビールの味は格別でした。そのうち走れる距離も徐々に長くなり、走りながらふと、フルマラソンに挑戦することを思い立ったのです。それまでの自分の人生の中にフルマラソンを走るなどと言う選択肢は全くありませんでしたが、きっとランナーズハイの状態だったのでしょう。それで翌年の「いぶすき菜の花マラソン」にエントリーしました。といっても 10km 以上の長距離を走るような練習もろくにせず、ほとんど思いつきみたいな状態で走りましたので、途中 20km くらいから股関節の激しい痛みには耐えながらの歩き走りで、何とか 6 時間 05 秒でゴールしました。ゴールした瞬間は、その達成感で思わず涙が出ました。直後は歩行もままならない状態がしばらく続きましたが、この経験から、その後もマラソンがやみつきになりました。

その後しばらくして、大阪の出身高校の同窓会に参加したところ、久しぶりに会った同級生の中で、同じようにマラソンに挑戦している人たちと意気投合し、ランナーズチームを結成しました。長く交流のなかった旧友達と、関西や九州のマラソン大会と一緒に出場したり、毎年夏には大阪で開催される 24 時間リレーマラソンなどに出場することを楽しみにしています。

また青雲会病院の院内でも、看護師やリハビリテーションスタッフを中心に青雲ランナーズを結成し、そろいの T シャツで大会に出場しています。メンバーの最高齢はすでに還暦を過ぎた女性看護師ですが、大会に出るたびに自己ベストを更新しているスゴイ人です。

私はすでにフルマラソンを 13 回以上走っていますが、記録はなかなか更新できず、最高記録は 2010 年の奈良マラソンで出した 3 時間 58 分です。サブフ

オー(4時間以内ゴール)はこれ一回きりです。スピードトレーニングは苦しくてなかなかできないので、最近は距離を長く走る事を目標にして、ウルトラマラソン(フル以上の距離)に挑戦しています。去年は阿蘇カルデラマラソン 100kmに挑戦しましたが、72kmの関門を制限時間で超えられず、涙をのみました。今年霧島ウルトラ旅マラソン 72kmを9時間12分でゴールしました。100km完走の道が少し見えた気がしました。

「そんなに走って何が楽しいの?」とよく聞かれます。私も以前はマラソンなんてどこが楽しいのかわかりませんでした。しかし、走り終わった後の爽快感、達成感は味わった人にしかわからないのです。もちろん走っている最中は、山あり谷あり、追い風、向かい風、状況がどんどん変わり、とても苦しくなったり、脚が痛くなったり、もうやめようかと思う事もしょっちゅうです。ただそこをこらえて、一步ずつ前に進めば、また一步ゴールに近づくと、自分を叱咤激励しながら頑張り続けると、最後にはゴールにたどり着くのです。その瞬間に最後まで頑張ったよかったという達成感を味わうことができ、またそれが次につながっていくのです。マラソンの国際大会や箱根駅伝のTV中継も、「あんなのどこがおもしろいんや」、と聞いていましたが、最近は、選手が苦しそうに走っている姿や選手同士の駆け引きをみて、気持ちが同化してしまい、見ていて興奮するようになりました。

今空前のマラソンブームで、多くのシティーマラソンが開催されるようになりましたが、応募者が殺到するため、高い倍率の抽選になり、エントリーもなかなかできない状態です。また地方でも大小いろんなマラソンレースが行われるようになりました。私が走り始めたころには、近所の路上を走っている人はほとんど見かけることはありませんでしたが、いまはたくさんのランナーと出会うようになりました。おそらく多くの人と同じような経験をして、走り続けるようになったのだと思います。

マラソンを続けることにより、くだらないことで悩んだり、落ち込む事がなくなり、いわゆる「折れない心」になりました。今まで、「くだらない」と思えなかったことが、「そんなことはくだらないことだ」と気持ちがすぐに切り替わるようになりました。このような現象は、脳生理学でもある程度実証されているようです。i p s細胞の山中先生もマラソン愛好家と聞きます。マラソンも、偉業を達成するための粘り強い研究生活の糧になったのではないかと思います。

いつまで続けられるかわかりませんが、まずは100kmマラソンの完走、次には還暦を迎える年に、同級生と一緒にホノルルマラソンの完走を目標に、日々走り続けようと思っています。

## 特別寄稿

「青雲会病院：2013年の評価と近未来に向けて」

青雲会病院 顧問

愛甲 孝

例年年末に、その年を締めくくり、来年に向けての心構えを新たにすべく、恒例の講演をさせて頂いています。今回も青雲会病院の職員の努力の軌跡とその評価、これからの青雲会病院の近未来について考えてみたいと思います。

2013年は日本中が「輪」になって頑張った一年でした。青雲会グループも職員一同、「輪」になって頑張った一年であり、人とのつながりの「輪」を強く感じた一年でした。その究めつけは、川井田理事長と私の古希の祝いに対する仲間の「輪」でした。皆さんに支えられ健康で、仕事を通じて、「何か世の為に、人の為に」気持ちよく働くことが出来る事に有り難いなあと私自身も感銘しました。

この一年の青雲会病院の三大ビッグ・イベントは、① 人間ドック健診施設認定（2月）、② 病院機能評価 Ver. 6 認定（4月）、③ DPC 導入決定（11月）であり、番外編として事務職員の夏服アロハシャツの着用（6月）でした。人間ドック学会からの施設認定は鹿児島県では3番目であり、MBC 南日本放送でも放映されました。本院の人間ドック室の特徴は、先生方をはじめ全職員が一致協力しての病院併設型の健診施設であることで、ダブルチェック、接遇、アメニティなど健診の質が高いことです。認定施設獲得にあたっては、スタッフが学会発表や研修などの努力の賜物でもあり、この一年の受診者は6, 132名にも及ぶようになりました。

病院機能評価 Ver. 6 認定に関しては、「今さら病院機能評価、されど機能評価」の感がありますが、認定受診にあたってのプロセスが大切であり医療の質のチェックに有意義であることは変わりありません。DPC (Diagnosis Procedure Combination) の導入は鹿児島県でも最後の方ですが、これからの行政の許認可制度が強化される状況の中で自然の流れでした。今後、しっかりと対応していかなければなりません。

今年も医局の先生方の奮闘ぶりには敬意を表したいと思います。とくに、病棟で40名前後の患者を持ち孤軍奮闘、黙々と仕事をしている島内院長、それを暖かくサポートする職員の姿が印象的でした。また、神の手の技を見せる松原医局長の今年の内視鏡実施数は5871例に及んでいます。そして老体を鞭打って当直開けも頑張っている坂梨先生にはただただ頭が下がります。

す。平田先生はじめ常勤医の先生方も第一戦で患者さんのために実に奮闘された一年でした。

今年も多くの新人が入職しました。毎朝のラジオ体操の指揮官である青雲荘の井手君もその一人です。新人の腕章が取れた時、初々しく働く姿は見ていて気持ちの良いものです。また、本年も幾人かの人事異動がありましたが、体制をリフレッシュすることで新たな活性化がみられています。とくに外来に本田師長が配属され、凶師、有馬両副師長と共に素晴らしい連携でトラブルが少なくなりました。同じく4階病棟では五反田師長、諸木副師長が昇任し奮闘していますが、リーダーは孤独でなければならないことを実感していることでしょう。さらに透析室が6月に外来から独立し、藤崎室長のもとで一致団結仕事をしていることは喜ばしい限りです。

本年からワーク・ライフバランスの向上に向けて退社時間をしっかり守り、労働基準法を遵守するという新たな第一歩がはじまりました。就業時間にけじめをつけ、効率よく仕事をするという新たな病院のブランドが生まれました。他にも接遇に対する活動、病院の美化に対する活動は、病院のブランドとして自他共に認めるところであり、それぞれが2千万円+ $\alpha$ の経費削減にもなっています。

最後に、これからの鹿児島県の医療の動向と青雲会病院の近未来の位置付けについて考えてみたいと思います。今、鹿児島県の医療体制が大きく変わろうとしています。特に鹿児島市内では大規模化、病院移転、救急医療の充実強化などの動きが注目され混迷が予測されます。その点、青雲会病院は地の利を生かして県中央域（始良・霧島・伊佐地区）の急性期診療拠点としてさらなる発展が期待されています。これからもさらに救急医療に特化するとともに、病院併設型の健診部門、透析部門、リハビリ部門をさらに強化する必要があります。今後はベッド再編成時代に対応した新たな大型急性期救急拠点病院として機能強化を図る必要があります。

いずれにしましても、この一年の真の評価とは、毎週の朝礼で唱和している理念や2014年の総合目標が、さらには理事長、院長の訓話がどこまで実践されているかであります。川井田理事長の評価は、「おおむね優良、90点」ですが、私の評価はもう少し高いものがあります。皆さんよく頑張ったと思います。改めて青雲会病院は強い組織だなと確信した次第です。これからも一致団結して、青雲会病院のさらなる進化に向けて取り組むことが重要であることは論を待ちません。

青雲会病院の益々の発展を願って、平成26年5月末日記す。

# I 青雲会病院

# 1. 青雲会の沿革

年月		沿革
昭和55年	8月	川井田病院 開設 (31 床)
		救急告示
昭和63年	4月	50床 に増床
平成2年	3月	訪問看護 開始
	4月	脳神経外科 開設
平成3年	4月	青雲病院に名称変更
	7月	136床に増床
平成6年	7月	MRI・高気圧酸素治療・人間ドック 開始
		日本脳神経外科学会専門医認定制度 指定訓練場所 認定
平成7年	1月	眼科 開設
	4月	医療法人 青雲会 設立
平成10年	9月	訪問看護ステーション青雲 開設
平成12年	6月	医薬分業 実施
平成13年	5月	通所リハビリテーション青雲 開設
		居宅介護支援事業所青雲 開設
		青雲柔道クラブ 設立
平成14年	9月	(財)日本医療機能評価機構認定Ver.3.0【一般病院種 A】
平成15年	1月	日本外科学会外科専門医制度 関連施設 認定
平成16年	2月	地域医療連携室設立開放型 病床18床
	3月	臨床研修病院 指定
	4月	介護老人保健施設青雲荘 開設 (入所70名 通所80名)
	7月	総合リハビリテーション・言語療法Ⅱ 開始
	8月	院長 交代 (川井田院長から島内院長へ)
平成17年	2月	日本脳卒中学会 研修教育病院 認定
	3月	日本眼科学会専門医制度 研修施設 認定
	7月	歯科口腔外科 開設
	11月	人工透析 開始
平成19年	7月	泌尿器科 開設
平成20年	1月	(財)日本病院機能評価機構認定Ver. 5【一般病院種A】
	7月	青雲病院 全面新築移転
		青雲会病院 オープン
平成21年	12月	訪問看護ステーション青雲 廃止
平成25年	2月	人間ドック健診施設機能評価認定
	3月	(財)日本病院機能評価機構認定Ver. 6

## 2.青雲会病院概要

名 称	医療法人 青雲会 青雲会病院
所在地	〒899-5431 鹿児島県始良市西餅田3011番地 TEL: 0995-66-3080 FAX: 0995-66-3057 E-mail: hospseiun@po.minc.ne.jp
開設者	医療法人 青雲会 理事長 川井田 浩
病院長	島内 正樹
診療科	外科、脳神経外科、眼科、整形外科、消化器外科、内科、胃腸内科、 肛門外科、呼吸器内科、循環器内科、内視鏡内科、リハビリテーション 科、形成外科、泌尿器科(人工透析)、歯科口腔外科
病床数	一般病棟 100床、回復期リハビリテーション病棟 36床
指定医療機関	救急告示病院
社会保険等指定	健康保険、国民健康保険、労災保険、生活保護、結核予防法、 身体障害者福祉法、原子爆弾被爆者一般疾病医療
施設基準	<p>医科</p> <p>一般病棟入院料 7対1 回復期リハビリテーション病棟入院料3 急性期看護補助体制加算 50対1 診療録管理体制加算 療養環境加算 重症者等療養環境特別加算 医療安全対策加算1 医師事務作業補助体制加算75対1 感染防止対策加算2 データ提出加算2 患者サポート体制充実加算 入院時食事療法費(Ⅰ) 食堂加算 薬剤管理指導料 医療機器安全管理料1 検体検査管理加算Ⅰ 検体検査管理加算Ⅱ コンタクトレンズ検査料1 CT撮影及びMRI撮影 大腸CT撮影加算 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ) 運動器リハビリテーション料(Ⅰ) 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ) 透析液水質確保加算2 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 医療点数表第2章第10部手術の通則5及び6 (歯科点数表第2章の第9部の通則4を含む。)に掲げる手術</p> <p>歯科</p> <p>歯科治療総合医療管理料 歯科外来診療環境体制加算 クラウン・ブリッジ維持管理料</p>
認定施設	日本脳神経外科学会専門医認定制度 指定訓練場所 認定 日本外科学会外科専門医制度 関連施設 認定 日本脳卒中学会 研修教育病院 認定 日本眼科学会専門医制度 研修施設 認定 (財)日本医療機能評価機構 認定 人間ドック健診施設機能評価 認定

フロア案内	
6階	【病室】601～615 ナースステーション 展望温泉 ラウンジ
5階	【病室】501～522 特室A 特室B ナースステーション
4階	【病室】401～423 特室C 高気圧酸素治療室 ナースステーション
3階	リハビリテーション室 大会議室 図書室
2階	手術室 透析室 人間ドックエリア 総務事務室 霊安室
1階	診察室1～9 泌尿器科 眼科 歯科口腔外科 点滴室 内視鏡室 放射線科 (MRI室・CT室・結石破碎装置室・X線透視室・乳房撮影室・ 歯科撮影室) 検査室 (心電図室)・脳波室・スミア室) 薬局 栄養指導室 企画・地域医療連携室 売店 喫茶コーナー



### 3. 病院の年間行事

#### 平成25年

- 4月 1日 入職式
- 24日 院内勉強会 (糖尿病)
- 5月 22日 院内勉強会 (在宅酸素治療)
- 29日 防災訓練
- 6月 17日 電子カルテ新システム稼働
- 26日 院内勉強会 (感染管理)
- 7月 24日 院内勉強会 (医療安全)
- 8月 28日 院内勉強会 (褥瘡)
- 9月 21日 救急蘇生勉強会
- 10月 23日 院内勉強会 (講師：高崎顧問)
- 11月 9日 職場体験学習
- 27日 院内勉強会 (感染管理)
- 12月 25日 クリスマスコンサート
- 12月 27日 御用納め
- 愛甲先生講演会

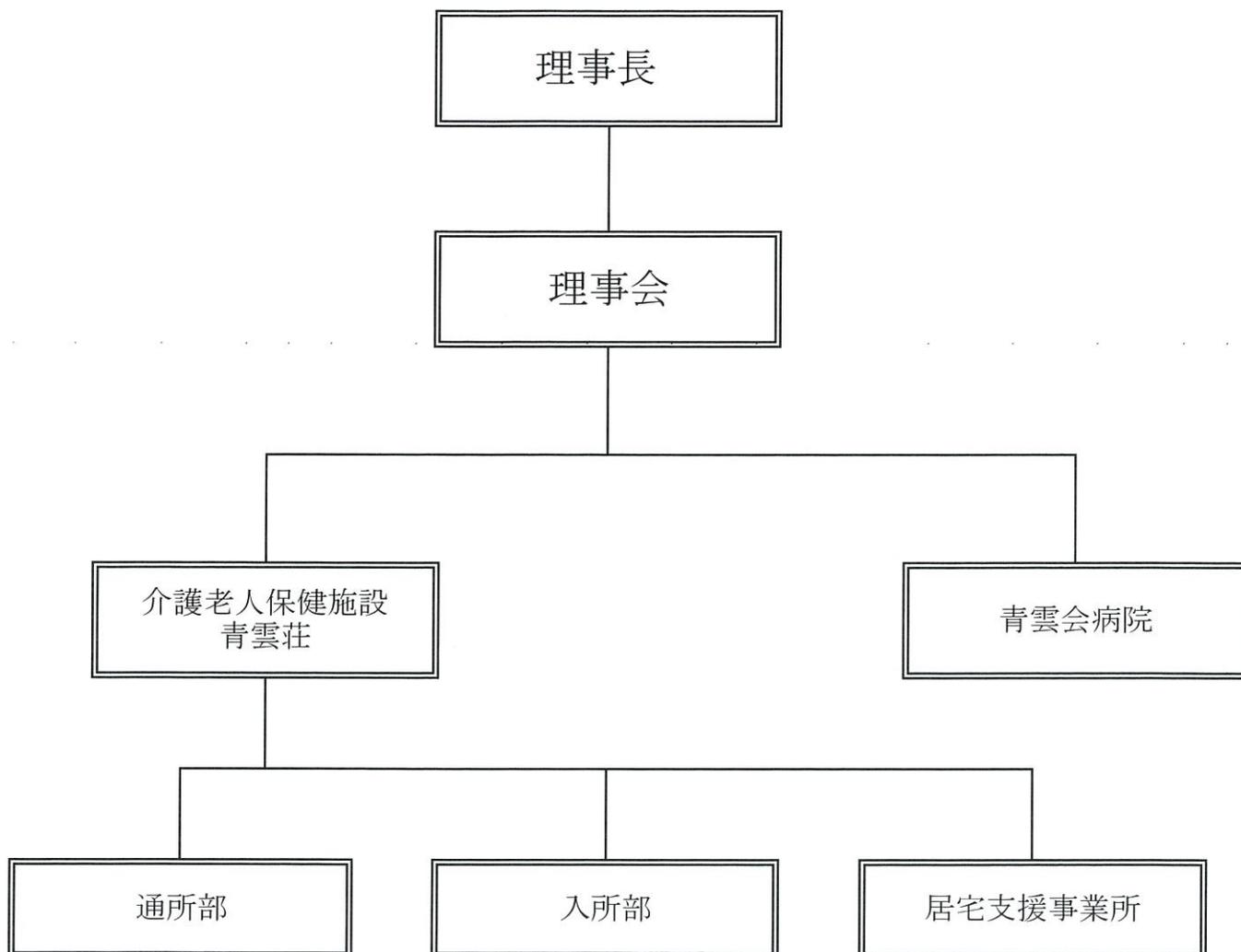
#### 平成26年

- 1月 4日 仕事始め
- 22日 医療監視
- 院内勉強会 (褥瘡)
- 2月 15日 症例研究会
- 3月 26日 院内勉強会 (医療安全)

#### 4. 組織図

### 医療法人 青雲会 組織図

平成25年4月1日現在

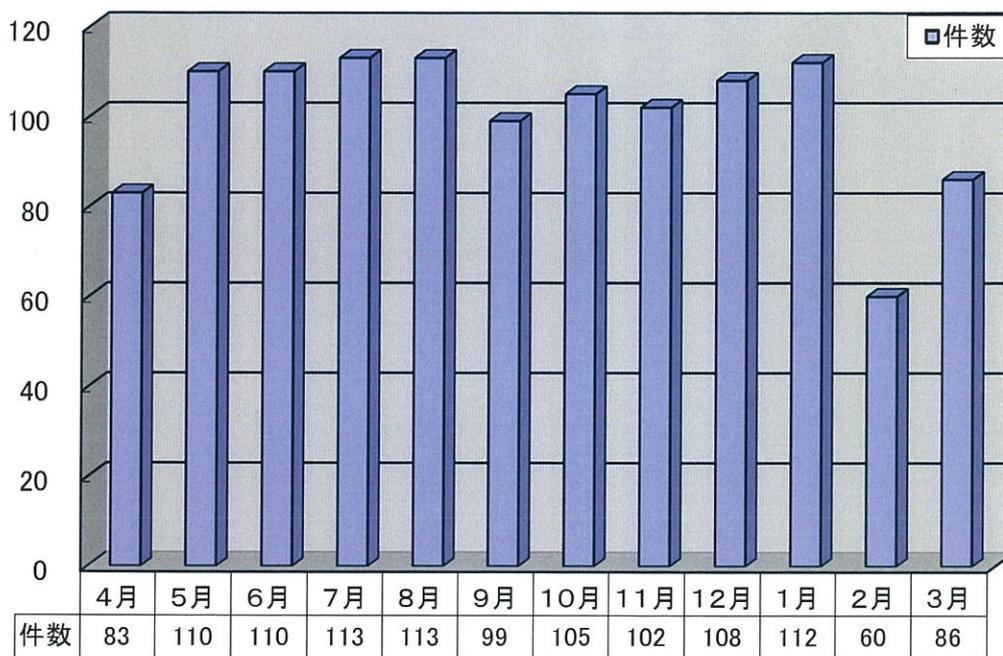




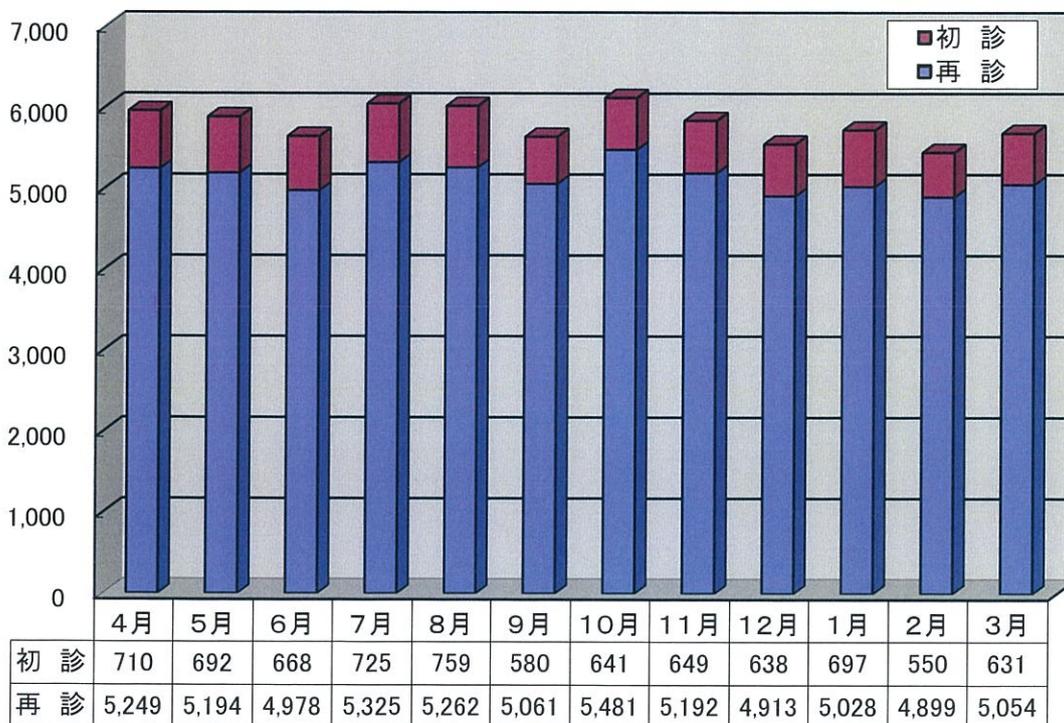
# 病 院 統 計

各科各部の診療実績・活動状況

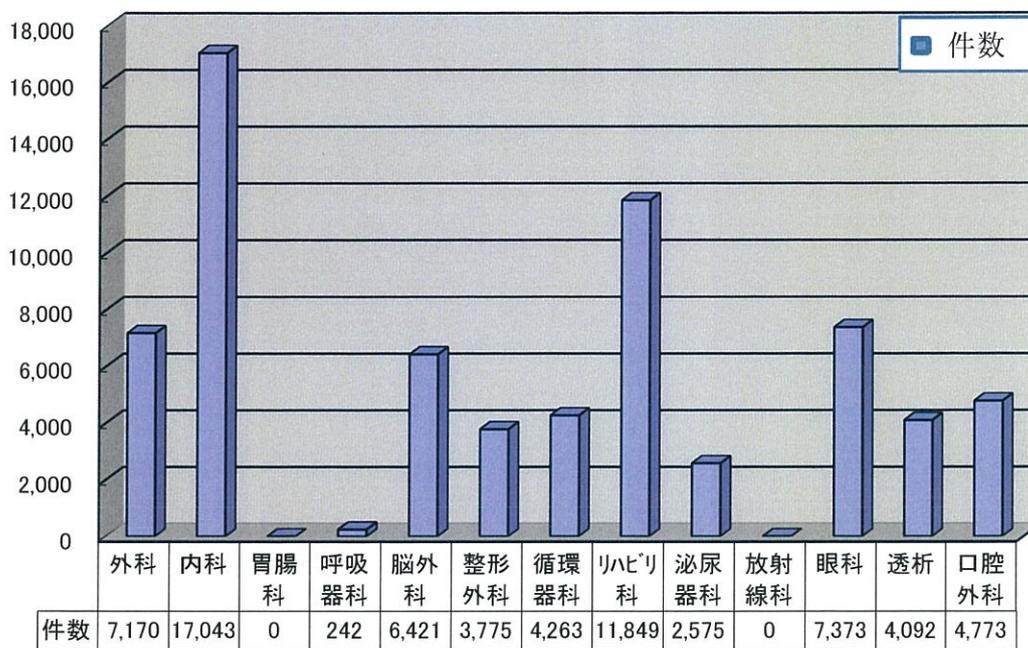
(1) 救急車件数



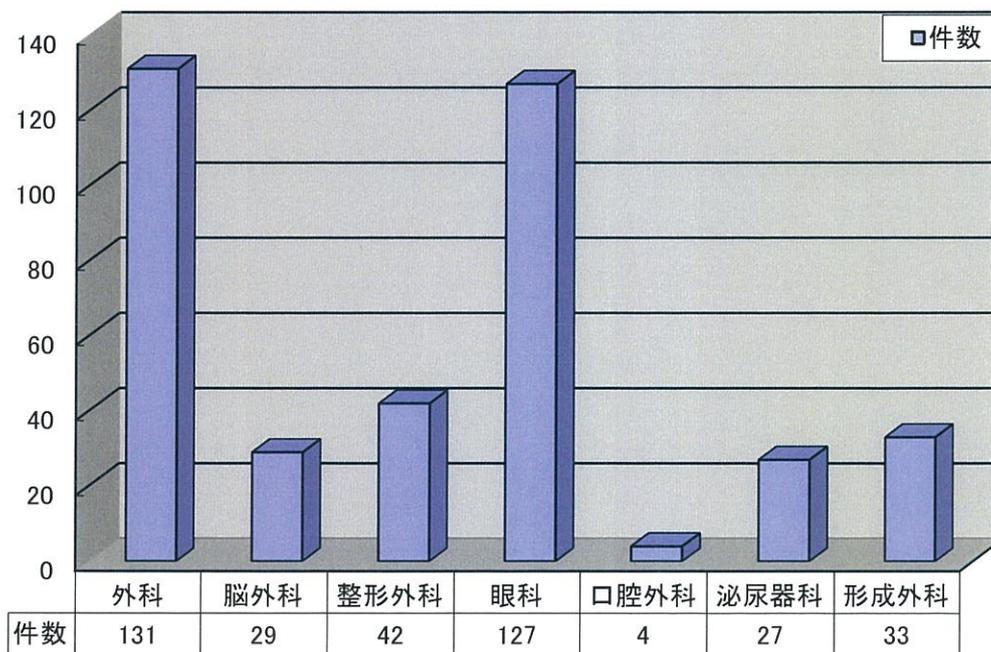
(2) 外来患者数



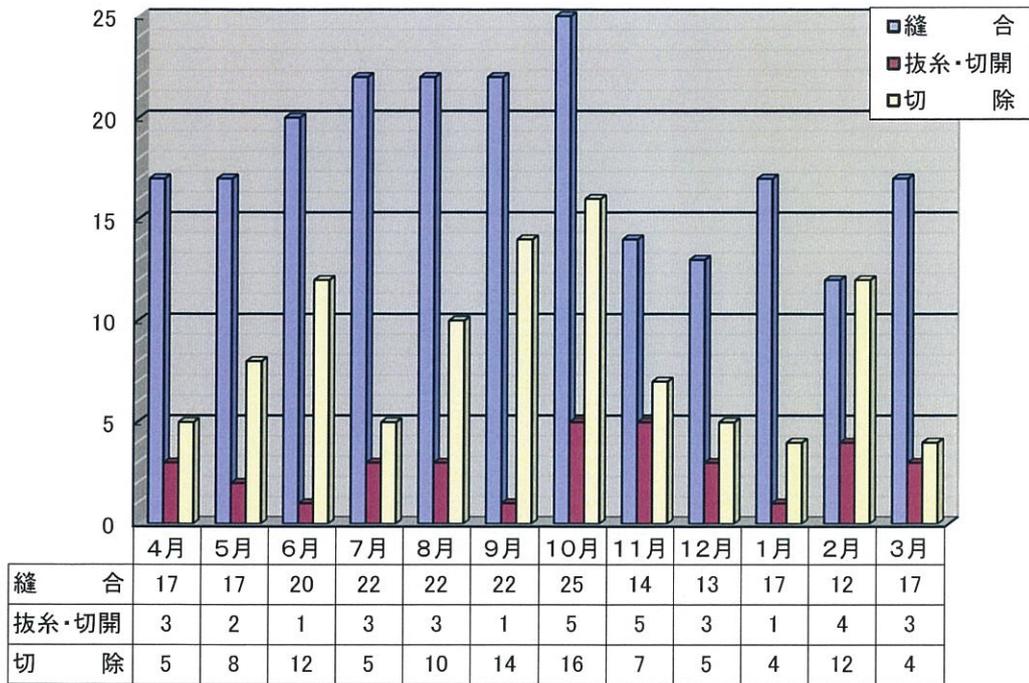
(3) 科目別外来件数



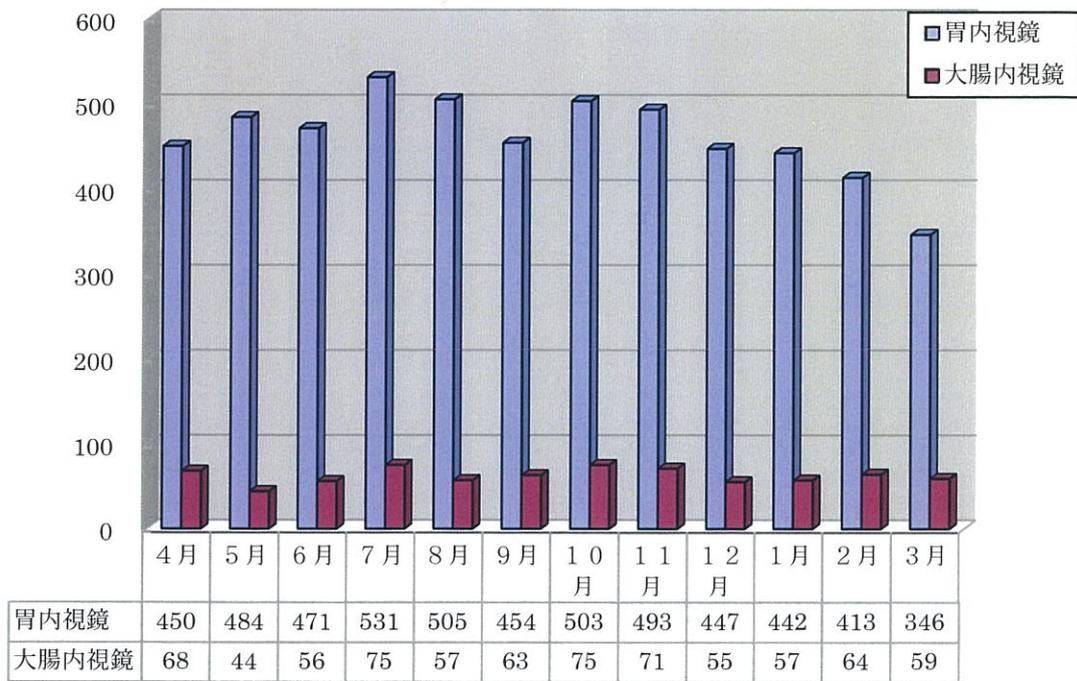
(4) 手術件数



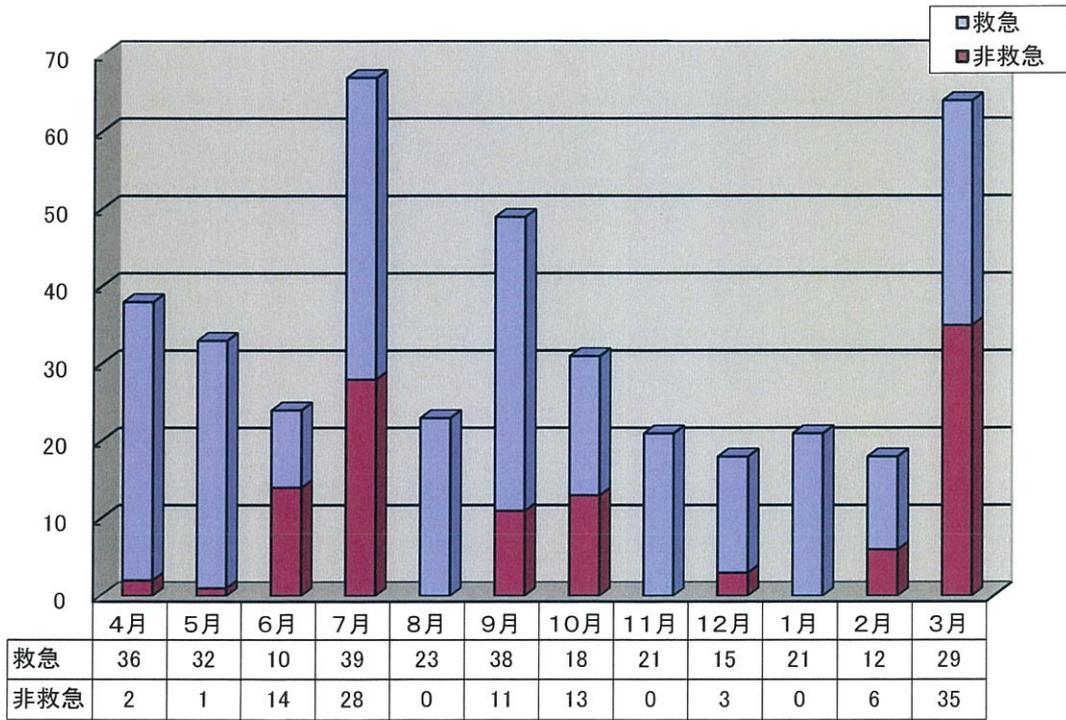
(5) 外来小手術件数



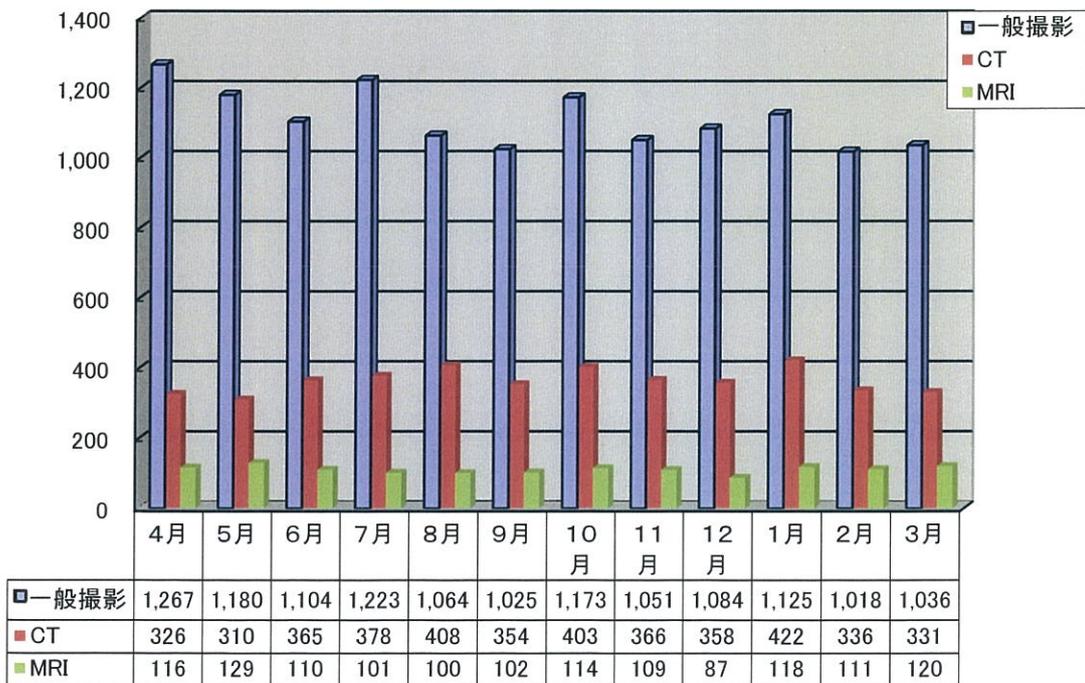
(6) 内視鏡状況



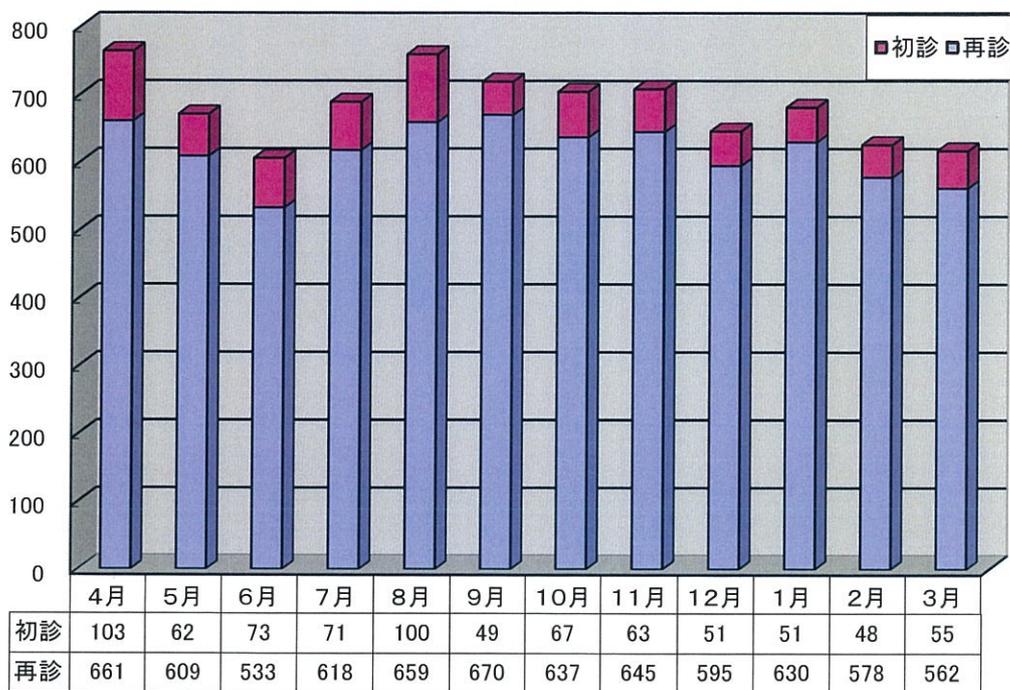
(7) 高気圧酸素治療集計



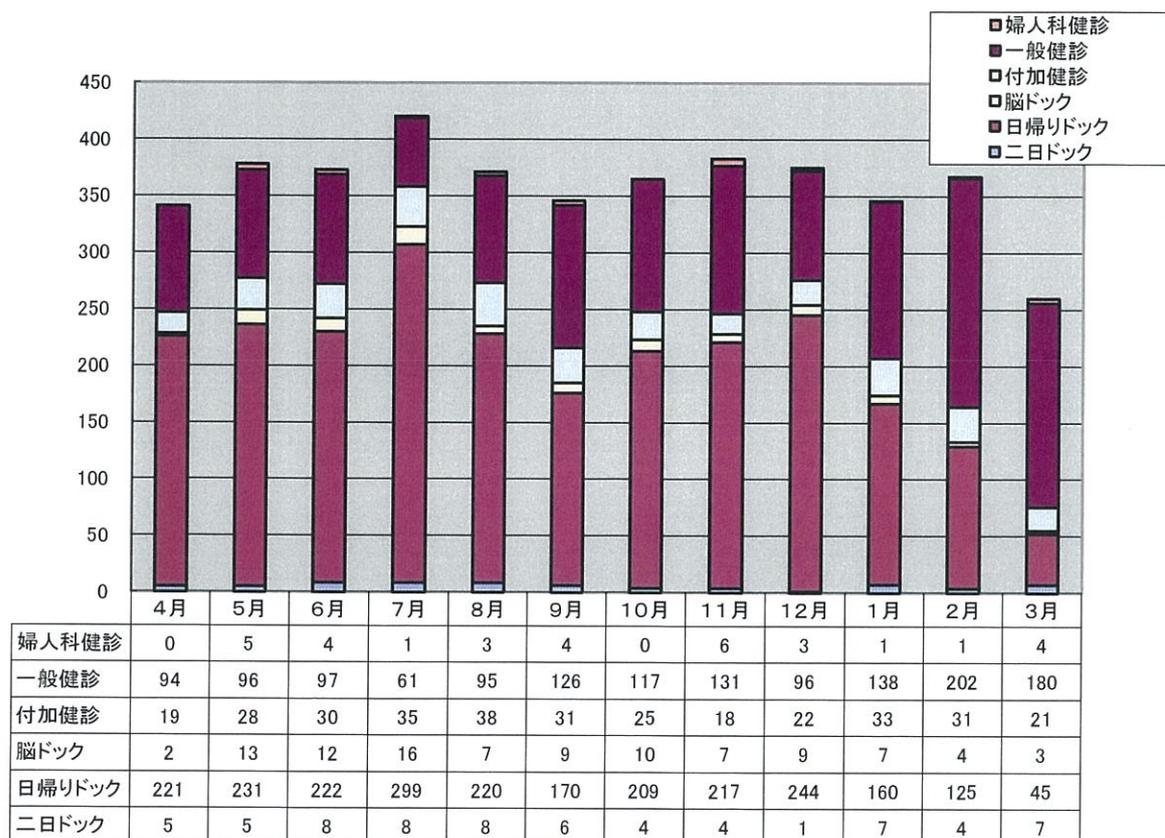
(8) 放射線科統計



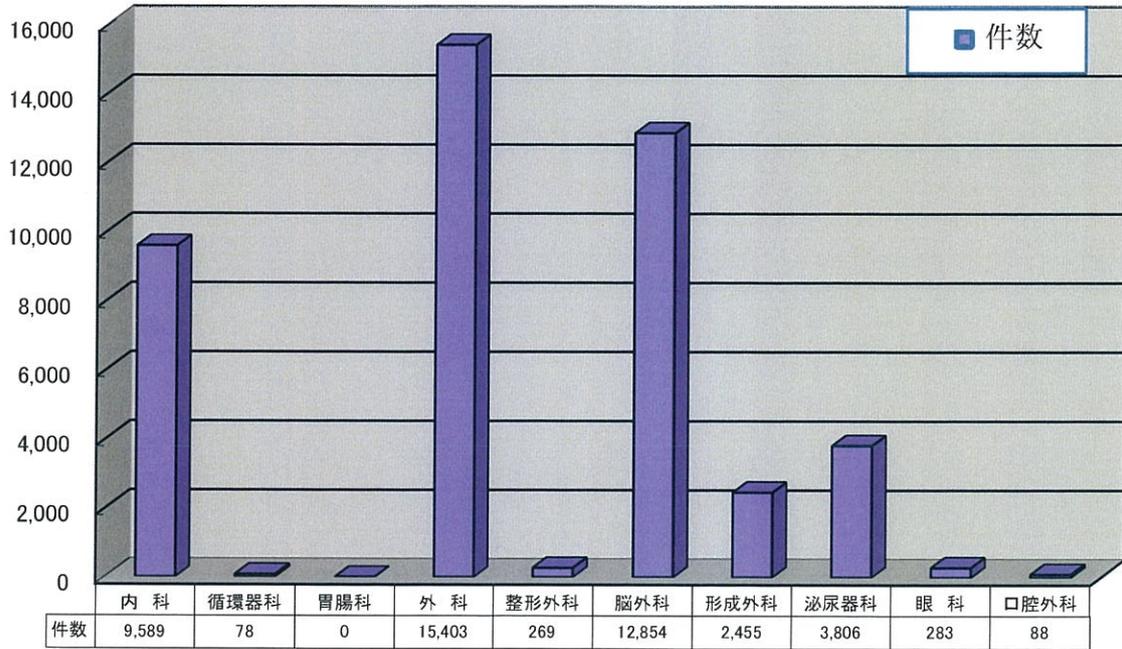
(9) 眼科統計



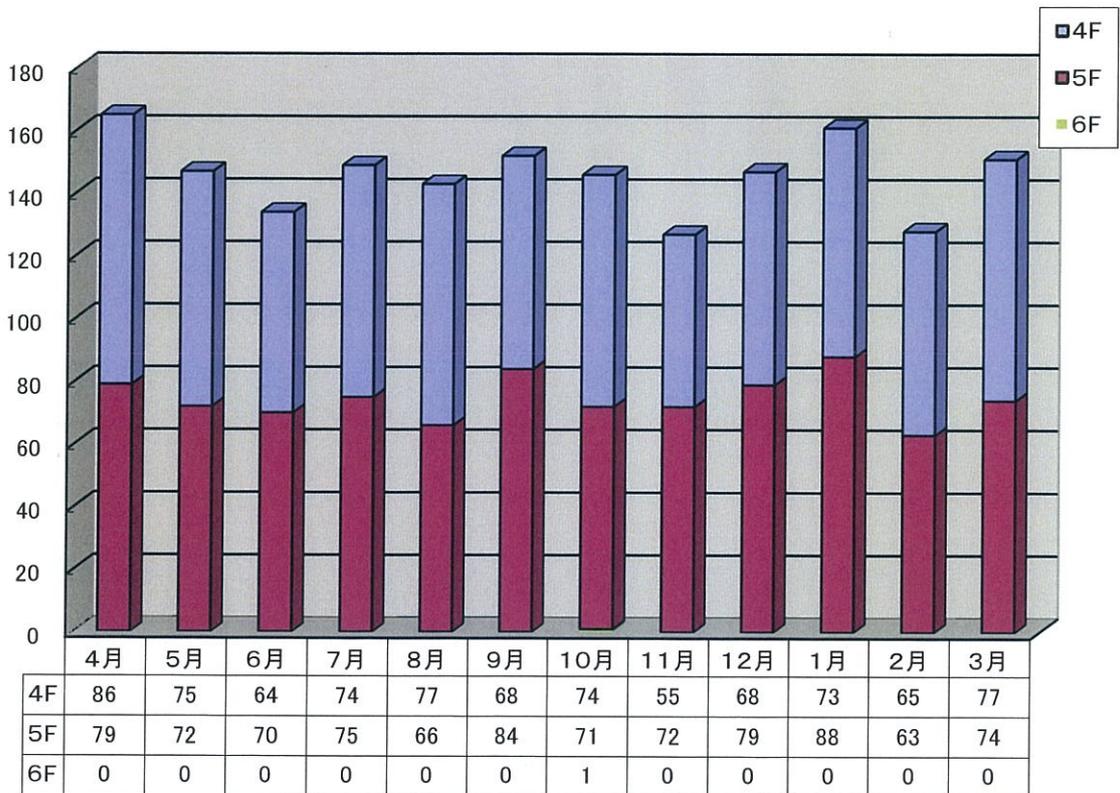
(10) 人間ドック・健診



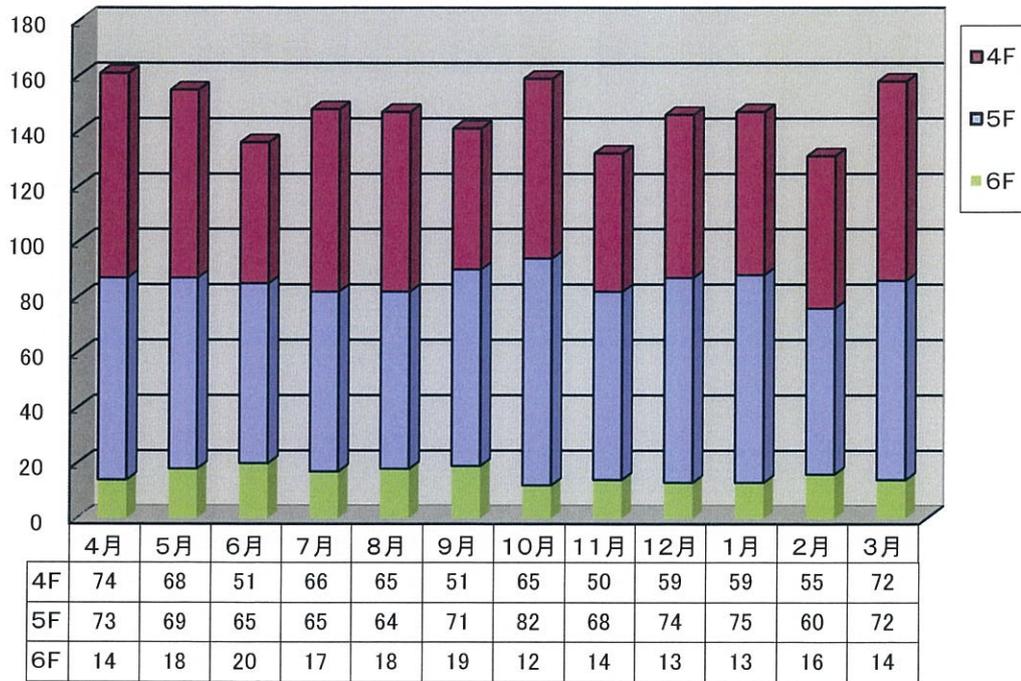
(1 1) 科別入院患者延数



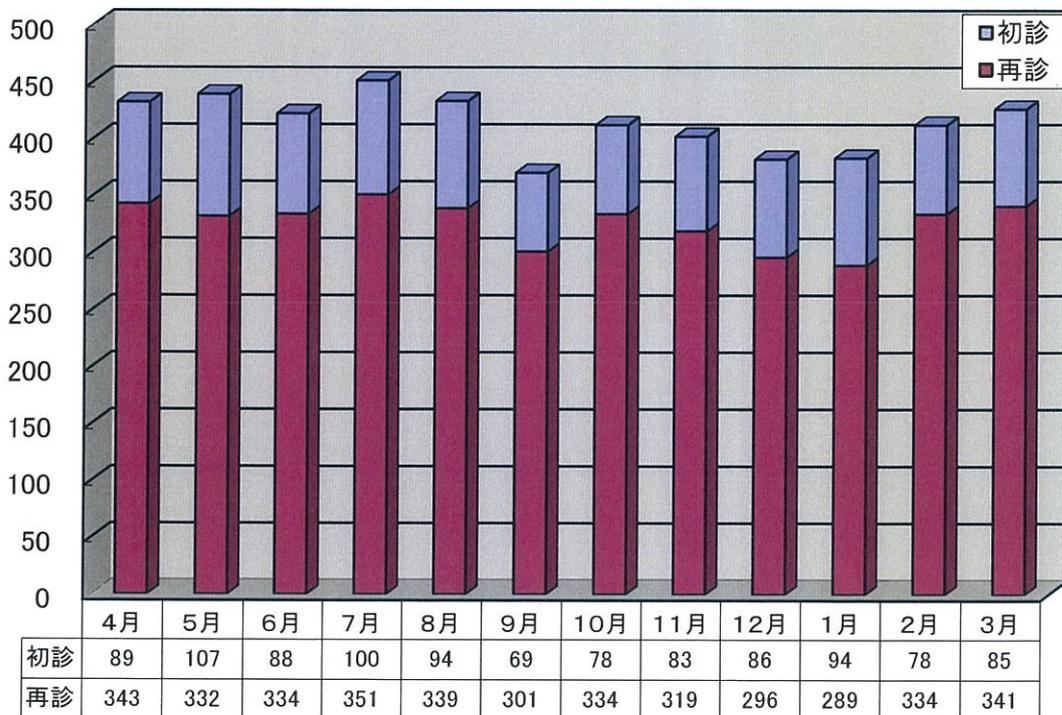
(1 2) 入院患者数



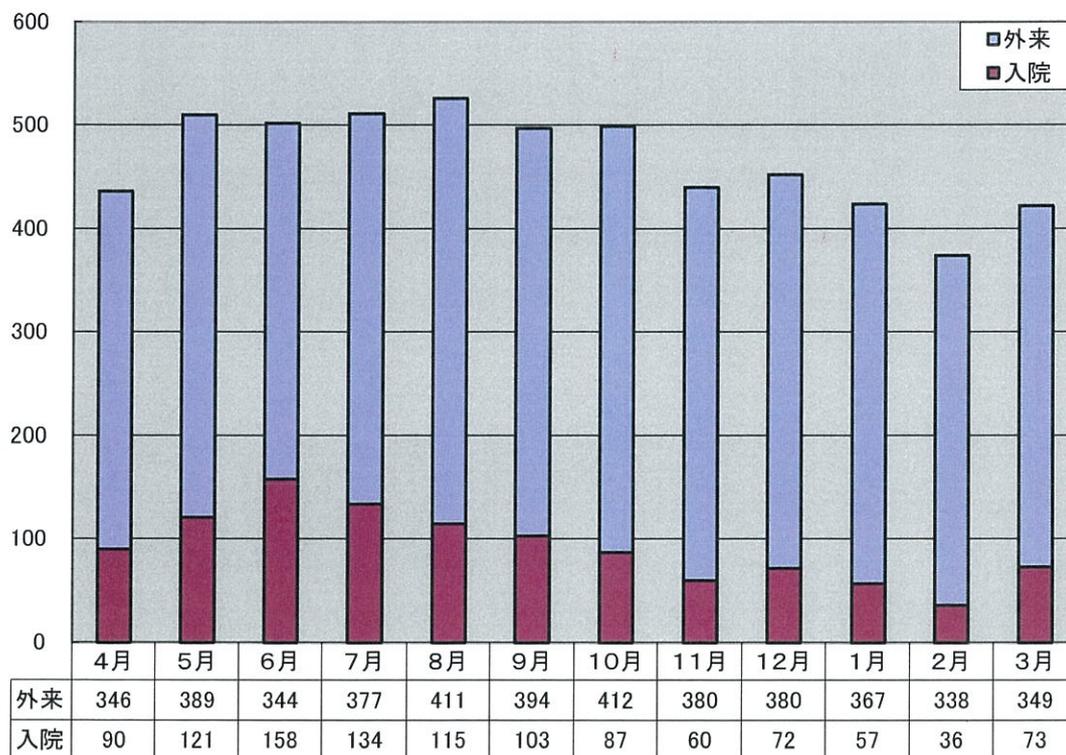
(13) 退院患者数



(14) 歯科口腔外科統計



(15) 人工透析

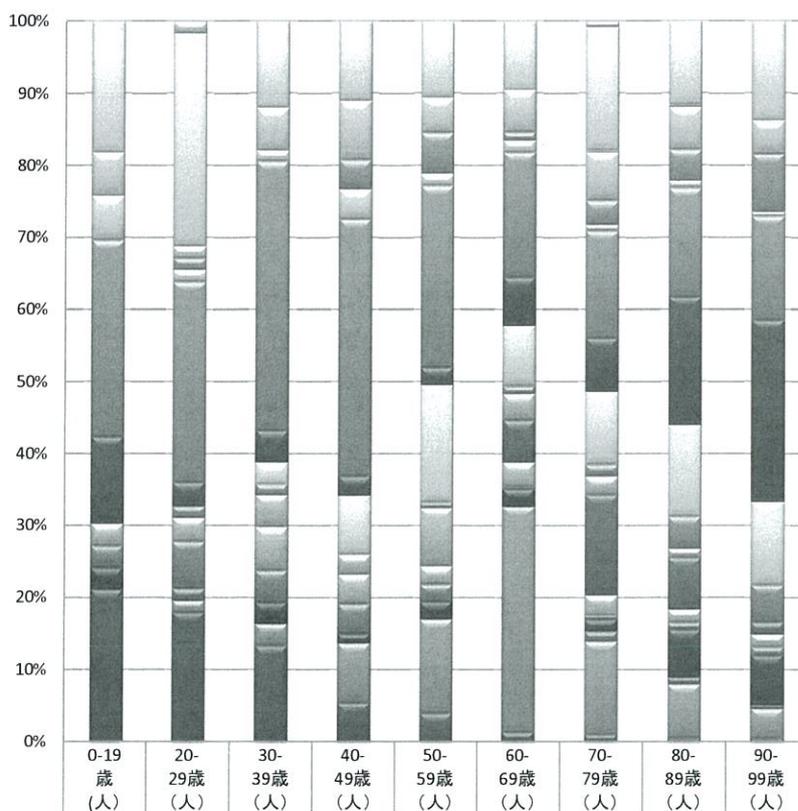


(16) 単月在院日数・病床稼働人数・病床稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
単月在院日数	17	18	18	18	18	17	18	18	17	18	19	17	17.8
病床稼働人数(人)	129	129	124	127	124	118	122	113	117	129	121	120	123
病床稼働率(%)	94.5	94.6	91.4	93.7	90.9	86.8	89.6	82.9	86.1	95.0	89.3	88.5	90.3

## H25年年代別ICD大分類割合

患者割合



	0-19 歳 (人)	20- 29歳 (人)	30- 39歳 (人)	40- 49歳 (人)	50- 59歳 (人)	60- 69歳 (人)	70- 79歳 (人)	80- 89歳 (人)	90- 99歳 (人)
■XXI 健康状態に影響を及ぼす要因	0	1	0	0	0	0	3	0	0
■XIX 損傷、中毒	6	18	8	8	13	34	61	59	24
■XVIII 症状、徴候	0	0	0	0	0	0	1	1	0
■XVII 先天奇形、変形および染色体異常	0	0	0	0	0	0	0	1	0
■XV 妊娠、分娩および産褥	0	0	0	0	0	0	0	0	0
■XIV 尿路性器系	2	1	4	6	6	21	24	30	8
■XIII 筋骨格系および結合組織	0	1	0	3	7	4	12	22	14
■XII 皮膚および皮下組織	2	1	1	3	2	6	3	5	1
■XI 消化器系	9	17	25	26	31	62	53	77	25
■X 呼吸器系	4	2	3	2	3	24	27	91	44
■IX 循環器系I60-I99	0	0	2	6	20	30	36	65	20
■IX 循環器系I00-I59	0	1	1	0	1	4	6	23	9
■VIII 耳および付属器	0	0	3	2	10	13	9	6	0
■VII 眼および付属器	0	0	0	0	0	21	50	37	3
■VI 神経系の疾患	1	2	4	3	3	12	10	9	3
■V 精神および行動の異常	1	4	3	3	3	1	2	5	2
■IV 内分泌、栄養および代謝疾患	1	0	2	1	3	9	6	34	12
■III 血液および造血器	0	1	0	0	0	0	5	5	1
■II 新生物	0	1	2	6	16	112	46	38	7
■感染症および寄生虫症	7	11	9	4	5	5	4	3	1

## 外科

平田 晋吾・宮川 佳保

外来では手術が必要そうな患者さんの診察、または手術後の経過をみるために、来院された患者さん方の診察を行っています。午後からは入院患者さんの処置や検査、手術を行っております。

2013年は140例の手術がありました。以下に内訳を示します。

近年胃癌で手術受ける方は少なくなり、大腸・直腸癌の方がとみに増加しています。定期的に大腸内視鏡検査を受ける習慣をつけたいものです。

担当医が少ないため、外来患者さんを長くお待たせすることが多く、申し訳ございません。

手術総数 140件（待機 115例、緊急 25例）

胆石・胆嚢炎	31件（腹腔鏡 25、開腹 6）
総胆管結石	4件
膵癌	1件
胃癌	2件
胃十二指腸潰瘍	1件
結腸癌	15件（腹腔鏡 1、開腹 14）
直腸癌	6件（腹腔鏡 1、開腹 5）
腸閉塞症	11件（癒着剥離 7、腸切除 4）
結腸憩室症	4件（膿瘍 4、出血 0）
結腸瘻造設・閉鎖	4件
虫垂炎	24件（腹腔鏡 1、開腹 23）
ヘルニア	31件（腹腔鏡 1、開腹 30）
痔核・膿瘍	1件
外傷その他	6件

## 脳神経外科

島内 正樹

平成25年1月から、日常診療は、ほぼ一人体制でしたが、9月から中間先生が非常勤医師として入職されました。中間先生は救急専門医で、脳神経外科の専門医ではありませんが、長く脳神経外科の診療にも携わっておられたため、脳疾患の救急患者に対して十分対応できる力があり、またそれ以外の重症救急患者への対応にも、その知識と技術に期待しているところです。

入院患者は大部分が脳血管障害で、そのうちの8割は脳梗塞患者でした。その傾向は、ここ数年は変わらないばかりか、益々高齢者の脳梗塞患者が増加しています。昨年よりtPA（血栓溶解剤）の適応時間が3時間から4.5時間に延長されたことにより、適応患者が増加しています。これにより予後良好患者も増加しており、大変喜ばしい事であります。

また昨年からはじめた上下肢の痙縮や片側顔面痙攣の患者さんに対するボツリヌス毒素（ボトックス®）療法も、希望する患者さんが増加しており、治療効果も上がっているようです。

### 脳神経外科入院患者数 311

脳腫瘍	3
脳血管障害	146
頭部外傷	35
脊椎脊髄疾患	1
機能的障害	19
神経系感染症	6
その他	101

### 脳神経外科外来患者数（延べ） 6772

昨年1年間で行った脳神経外科手術	37
<開頭手術>	11
脳腫瘍摘出術	0
脳動脈瘤クリッピング術	5
開頭血腫除去術	6
その他	0
<穿頭手術>	19
頭蓋内血腫除去	18
シャント術	1
脳室ドレナージ	0
<脊椎 脊髄>	2
椎間板・椎弓後方到達法	1
椎間板・前方到達法	1
<その他の手術>	5

## 消化器内科

松原 照征 ・ 川本研一郎

### 1. 消化器内科医師、内視鏡室スタッフ

常勤医師の松原照征、川本研一郎、及び非常勤医師の丸尾周三、水流弘文が担当しています。内視鏡室スタッフは今村睦子主任及び上野志朋、福崎みどり、小濱美恵子看護師及び看護助手の村田香織です。

### 2. 検査・処置

平成25年度の検査・処置件数は別表の通りです。（平成23.24年度も参照）

内視鏡検査	平成25年度	平成24年度	平成23年度
上部消化管内視鏡	5539	4838	4773
下部消化管内視鏡	744	658	623
ERCP	87	13	21

内視鏡処置件数	平成25年度	平成24年度	平成23年度
胃瘻増設	57	59	57
ポリープ切除・EMR上部	1	5	2
ポリープ切除・EMR下部	84	71	92
静脈瘤結紮術（EVL）	9	1	3
消化管止血術	49	56	54
総胆管結石排石術	31	5	12
拡張・ステント留置	17	10	17
経皮的胆道鏡処置	4	0	0
内視鏡的胆管金属ステント留置術	6	0	0

### 3. 現況及び今後へ向けて

検査件数は上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡は増加、ERCPは大幅増加でした。

25年度4月より川本研一郎医師が常勤医として来られ、専門である胆膵系の内視鏡治療件数が期待通り増えて来ています。経皮的な胆道鏡を用いた処置も行っており、今後も多様な胆道系疾患に対応できると思われれます。

内視鏡室のスタッフも技術、知識も向上し本年は更なる飛躍が期待されます。なお、昨年2月末からピロリ菌の除菌療法の保険適用が慢性の胃炎でも認められたため、当院では人間ドック利用者に陽性判定されれば、即日処方治療するなど便宜を図り、将来の消化性潰瘍や胃癌の予防を推進していくつもりです。

## 眼 科

黒岩 宣宏

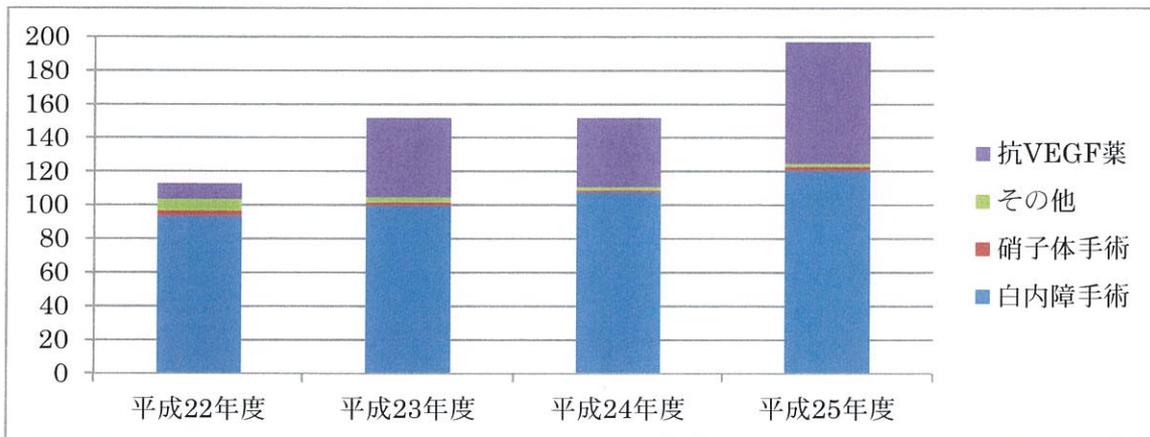
### <診療体制と診療内容>

引き続き鹿児島大学病院 眼科からの派遣医師が常勤として勤務しており、平成25年10月より柿内奈保子医師に代わり、黒岩宣宏が赴任致しました。手術実績は昨年度と比較して白内障手術、硝子体手術の件数ともに増加しました。加齢黄斑変性や網膜血管閉塞症、糖尿病黄斑症等に対する抗VEGF薬注射も昨年度より増加しました。

今後も鹿児島大学病院 眼科と連携して、質の高い医療を目指していきます。木曜日は引き続き田中実医師の緑内障を中心とした専門性の高い外来を行っています。

### <手術実績>

	白内障手術	硝子体手術	その他	抗VEGF薬	合計
平成22年度	94	3	7	9	112
平成23年度	100	2	3	47	150
平成24年度	108	1	2	41	152
平成25年度	121	2	2	72	197



### <反省と今後の課題>

眼科は予約制を導入しており、患者さんの待ち時間短縮とスタッフの負担軽減の両方の効率化が期待できます。以前から予約制の周知を行っていることで、以前と比べて待ち時間の不満が聞かれる機会は減ってきてはいますが、まだ予約制を知らずに来られる患者様に待ち時間が長くなり、稀に不満の訴えが聞かれることがあります。

今後も予約制の周知を行っていくこと、スタッフ全員が接遇スキルをさらに向上させることで、より満足される診療体制を目指します。

## 整形外科

坂梨 謙一 ・ 安松 英夫

整形外科診療は常勤医師不在の中、月曜日と火曜日は坂梨医師が、金曜日は安松医師が担当しております。

新病院オープン移転に伴い外来患者数は増加の傾向にありますが、骨折・外傷を中心とした整形外科救急疾患に対しては、非常勤の医師では十分に対応しきれない点もあるため、常勤医師の確保が望まれるところです。

慢性疾患（腰痛、肩こり、関節痛）に対しては最近本院にも膝関節鏡が導入されたため、今後は関節鏡手術の増加が見込まれます。

最近1年間の手術症例は下記の通りです。

これからも、皆様方のご期待に添うよう努力していきたい所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

### 平成 25 年度 整形外科手術件数

手術総数 42 件

骨折接合術	17 例	膝関節形成術 (関節鏡下)	2 例
前腕骨骨折	2	腰椎椎弓形成術	1 例
上腕骨骨折	1	骨折後抜釘	10 例
下腿骨骨折	2	腱鞘切開・剥離	9 例
大腿頸部骨折	12	軟部腫瘍摘出	1 例
人工骨頭挿入術	2 例		
大腿頸部骨折	2		

## 形成外科

吉田 栄香

形成外科診療は、外来では皮膚外傷や肥厚性癬痕などの加療を行っております。粉瘤や脂肪腫等の皮膚皮下良性腫瘍摘出術や皮膚悪性腫瘍の切除・再建などの手術を行いました。基本的には外来による局所麻酔下の手術です。また毎週火曜日に全病棟に対し褥瘡回診を行い、褥瘡以外の皮膚病変の相談・加療にあたっています。

また、糖尿病性難治性足潰瘍、仙骨部・臀部褥瘡の2症例に対し、局麻下のデブリードマン後陰圧持続療法を施行し、保存的に創の上皮化を認めております。

平成25年度 形成外科手術件数 計42例

良性皮膚皮下腫瘍切除 26例

悪性皮膚腫瘍摘出 2例、生検 1例、局所皮弁 1例

外傷後植皮術 1例、

陥入爪フェノール法 6例

デブリードマン後持続陰圧療法 2例

## 泌尿器科

山川 健一

### 【業務内容】

尿路・男性器の感染症・腫瘍・外傷、尿路結石症、排尿障害（前立腺肥大症、神経因性膀胱）、ED、腎機能障害等を扱っています。

検査は経腹的・経直腸的超音波検査、尿検査、尿流量測定、前立腺針生検、膀胱尿道鏡、膀胱生検、尿道・膀胱造影、経静脈腎盂尿管造影、逆行性腎盂尿管造影内シャント血管造影等行っています。

処置・手術は、尿道ブジー拡張、陰嚢穿刺、膀胱瘻造設・交換、腎瘻造設・交換、尿管ステント留置、ESWL（体外衝撃波結石破碎術）、経尿道的尿路結石破碎術、経尿道的前立腺切除術、経尿道的膀胱腫瘍切除術、陰嚢水腫根治術、徐睾術、包茎手術、精管結紮、腎臓摘出術、前立腺全摘術、PTA(経皮的内シャント血管拡張)、内シャント造設等を行っており、血液透析、血液浄化療法も担当しています。

### 【検査・処置・手術実績】

膀胱鏡	40 例	経尿道的前立腺切除術	4 例
超音波検査	528 例	経尿道的膀胱腫瘍切除術	2 例
前立腺生検	27 例	経尿道的尿路結石破碎術	7 例
膀胱生検	0 例	経尿道的尿道拡張術	1 例
ブジー（尿道拡張）	5 例	陰嚢水腫根治術	1 例
陰嚢穿刺	2 例	内シャント造設	6 例
尿管ステント留置	9 例	前立腺全摘術	0 例
腎瘻造設	3 例	P T A	15 例
膀胱瘻造設	1 例	腎嚢胞穿刺	2 例

### 【平成 25 年度の反省】

外来患者数は 25 年度 2575 人でした。

透析回数は 24 年度の 5327 回から 25 年度は 5593 回へ増加（+ 266 回）しました。

現在泌尿器科医 1 名で、透析と外来の両方診療しているため、外来診察は 9 時半からとなっております。3 月からは外来を予約制とし、待ち時間が短くなったと患者さんに喜ばれています。

### 【平成 26 年度目標・課題】

透析件数が、伸びる余地があるので増やしていけるよう努力する。

近隣の病院から紹介してもらえよう宣伝や関係強化に努める。

外来看護師の入れ替わりがあり、業務内容のマニュアル作り等に努める。

## 健診外来、セカンドオピニオン外来

愛甲 孝

青雲会病院では、健診外来を川井田理事長と私が主に担当しています。また、私共は人間ドック、健康診断にも携わっていますが、このたび、青雲会病院の人間ドック室は認定施設を受けました。検診の質、施設が高く評価されたもので、鹿児島県で3番目の検診施設です。これからは病気にならないように早期予防、病気になっても早期診断、早期治療に努めましょう。そのためにも1年に一度は、定期的に必ず検診を受けましょう。異常を指摘されたら私共の健診外来を受診して下さい。

今年も、6123名が健診を受診され、無症状の肺がんが2名、直腸がん2名、肝臓がん1名、乳癌1名、脳髄膜腫1名が発見されています。いずれの方も働き盛りの年代であり、幸いに全例軽快しています。喫煙指数の高い50歳以上の方は胸部CTを、超音波検査にて異常を指摘されたら腹部CTを受けて下さい。乳房撮影は石灰化の既往や乳癌危険因子の方に、前立腺検査（PSA）は50歳以上で排尿障害を訴える方は是非受診して下さい。

また、セカンドオピニオン外来を私共が中心になり担当しています。具体的には、私共の専門であります肺癌や胃がんなどの消化器癌などの「癌の診療」と「外科手術」に関して、皆様からの相談を受けています。「癌の診断、治療、手術など」で困ったことやお尋ねしたいことがありましたら、私共の外来（セカンド・オピニオン外来）を受診して下さい。

【健康診断受診者総数】 6, 123名 （平成25年度）

【悪性疾患発見者数】

疾患名	年齢	性別
肺がん	62才	男性
	63才	男性
直腸がん	61才	男性
	40才	女性
肝臓がん	55才	男性
乳癌	49才	女性
脳髄膜腫	63才	男性
陳旧性心筋梗塞	50才	男性
若年性心房細動	44才	男性

## 歯科口腔外科

守山 泰司

### <診療体制>

現在、常勤歯科医 1 名、歯科衛生士 2 名、事務職員 1 名で、月曜から金曜の午前・午後(第 3 木曜の午後を除く)と第 3 土曜午前に診療を行っています。

### <診療内容>

#### (外来診療)

月曜から金曜(土曜)まで、守山が歯科口腔外科外来を担当しています。平成 25 年の新患総数は 788 名でした。そのうち他院からの紹介患者は 466 名で、新患総数の 59.1%を占めています。

紹介元の内訳は歯科からの紹介が 435 名で、そのうち始良市内からが 288 名、市外からが 147 名でした。また医科からの紹介患者 31 名で、市内と市外がそれぞれ 18 名と 13 名でした。また、院内他科からの紹介も 69 名ありました。

紹介疾患の内訳は埋伏智歯などの難抜歯、心疾患・脳血管障害などで抗血栓療法中の抜歯、顎関節症の順に多く、これらで約 80%を占めていました。抗血栓療法患者の抜歯は、日本循環器学会のガイドライン(2004)に従い、原則的にワーファリン、抗血小板剤などの休薬は行わずに実施しています。

#### (入院診療)

炎症、良性腫瘍、嚢胞、外傷、口唇口蓋裂などの入院治療、あるいは全身麻酔下の手術を行っています。またハイリスクの患者さんの抜歯などの際には、術日に入院していただく場合もあります。

#### (入院患者の歯科治療)

当院の入院患者さんは高齢者が多く、大多数に加齢や降圧剤等服薬による口腔乾燥があり、それに起因する口腔粘膜の各種疾患を認めます。また、義歯の不適合・破損・紛失なども多く、その修理・再製等も行っています。

#### (入院患者・青雲荘入所者の口腔ケア)

歯科衛生士による専門的口腔ケアを行うとともに、看護師、言語聴覚士、介護福祉士などのコメディカルスタッフによる、一般的口腔ケアのサポートを行っており、誤嚥性肺炎の減少など、一定の成果があがっています。

### ＜今後の課題＞

骨粗しょう症の治療薬として、近年ビスホスホネート系薬剤が広く使われていますが、抜歯後など外科処置後、あるいは歯周病などの慢性炎症性疾患に起因し顎骨壊死を起こすことが知られています。その発症の詳細なメカニズムはいまだ不明で、治療、あるいは予防法についても、確実なものは提示されていないのが現状です。臨床現場の印象としては、潜在的なリスクを持っている患者さんは想像以上に多いようです。また、高齢化にともない、これからますます服用者の増加、服用期間の長期化が予想されます。その予防、治療のために、歯科のみならず、内科、整形外科、リウマチ科など医科の先生方との連携を深めていく必要があります。また、服用患者さんへの啓蒙活動も行なっていきたいと考えています。

## 看護部

副院長兼看護部長  
今村 由美子

### <総合目標に対する取り組みと反省>

「仲良きことは素晴らしい。理想を忘れず努力しよう」

職員間の人間関係が良好であれば、業務の効率化、医療事故防止、業務にやりがいを持ち、生き生きと仕事ができます。この気持ちをいつも持ち続け人間関係の基本である挨拶を積極的に行いました。また、接遇実行委員会で決められた徹底事項は、「実行する」という想いで実践に生かしました。当院は、職員間の連携ができていますのでお互いに協力し、問題点があれば会議等で対策を練り改善できました。

自分の目指す理想をまだ達成できませんが、今後も理想に近づけるように努めていきます。

### <看護部の目標に対する取り組みと反省>

「知識と技術の向上に努め、お互いを大切にしよう」

今年は、電子カルテのバージョンアップでした。会議等で委員会のメンバーが様々な意見を出し合い、バージョンアップができました。

教育は、看護部教育委員の担当者が研修計画を立案し行いました。看護補助者も介護ケア、接遇等、毎月研修が行われ質の向上に努め、チームの重要な役割を担える人材となり士気向上に繋がっています。

また、職員間でお互いに協力、業務改善することで働きやすい環境づくりはできたと思います。

<業務内容、活動状況>

視点	内容
経営面	看護師確保 7対1看護基準の維持 入院患者数の確保、平均在院日数の短縮（合併症の予防） 退院調整の充実 SPD管理を強化、物品の破損防止 時間管理 医療事故防止、感染防止
患者満足度	接遇の向上 満足度調査、待ち時間対策
業務	電子カルテバージョンアップ 5S活動の実行
教育	新人研修の充実、年間教育計画 専門分野における研修 目標管理の充実 看護学校との連携 看護管理者会への参加

<今後の課題>

病院の総合目標を基に、出来る事から実行し、職員一人一人が「青雲会で働いて良かった」と言って頂けるような職場環境づくりに努めたいと思います。また、接遇に関しては、患者さん、家族へは、ほとんどの職員が出来ていると思います。しかし、職員間でまだ不十分なところもありますので、接遇指導者等の協力を得て、昨年より高い評価となるようにしていきたいと思います。

経営面においては、2014年度診療報酬改定は、急性期病院においては厳しい改定となりました。重症度・看護必要度基準の見直し、短期手術・検査による入院の取り扱いの見直し、特定除外制度の廃止、このほか退院割合（自宅や居住系施設等への退院割合75%以上）データ提出加算の届け出が7対1看護の基準に追加されました。この要件を満たすためには国の政策である機能分化、地域連携の充実を当院も実行しなければいけません。

様々な項目を漏れなくクリアするために、管理をきちんと行っていきたいと思っています。

また、当院での看護は、「センスのある看護」を目指し、急性期の治療を終えた患者さんが、施設入所、療養型の病院に転院されても継続した看護が提供できるように努めます。

看護部のキャッチフレーズ「笑顔と優しさが一番」を、今後も徹底していきます。

## 外 来

外来師長 本田 浩巳

### <総合目標に対する取り組みと反省>

朝礼時、全員で目標の唱和を行うことにより個々の認識を高め、専門職としての誇りを持ち、業務に取り組むことが出来ました。

スタッフ同士、コミュニケーションが図られ、大きなミスをすることなく患者へも笑顔で接するように努めました。

### <各部署の目標に対する取り組みと反省>

(目標) 和気あいあい理想に向かって心一つに。

(反省) お互いに声を掛け合い、和気あいあい、良い雰囲気で行うことが出来ました。また、忙しい時も笑顔で患者へ接するように心がけました。

### <活動状況、業務内容>

- ・患者の状態に合わせた基本票の振り分け
- ・放送の工夫
- ・診察待ちの方々への情報提供

### 《H25 年度外来受診者実績平均》

外来受診者目標 270 名/日

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
264(名)	260	258	255	248	271	258	265	265	277	267	259
97.8%	96.2	95.6	94.4	91.8	100.4	95.6	98.1	98.1	102.6	98.9	96

### <今後の課題>

接遇のレベルアップに努め、外来受診者数の増加に努めます。

5S活動を全員で行い「ムリ、ムラ、ムダ」をなくし、業務の効率化、患者待ち時間短縮を目指します。

## 手術室

手術室室長 平田 照志

### <総合目標に対する取り組みと反省>

日々、コミュニケーションをとり、相手の立場に立って考え協力し合ったことで、大きなミスもなく業務が出来ました。

### <手術室の目標に対する取り組みと反省>

目標 タイムアウトの徹底  
手術室の整理整頓

反省 各自、タイムアウトを行う意義を考え業務徹底出来ました。  
手術室の整理整頓は今後も引き続き、医師・スタッフの意見を取り入れ改善していきます。

### <活動状況、業務内容>

- ・手術室運営委員会を毎月第3木曜日 13:30より開催し、情報共有を行い、問題点を検討し業務改善に努めました。
- ・計画を立てて勉強会を行い、個々の知識・技術の向上に努めました。また、手術室スタッフ対象の他院勉強会にも参加しました。

### 《平成25年度手術室実績》

総手術件数 400件

(内訳)

定期手術 364件

定期外手術 36件

	外科	形成外科	脳外科	整形外科	眼科	耳鼻科	口腔外科	泌尿器科	循環器	合計
手術件数	131	33	29	42	127	4	4	27	3	400

### <今後の課題>

新しいスタッフが増えているので、指導・教育を含めて患者中心のケアが出来るように、業務体制を作り上げていきます。

## 透析室

透析室室長 藤崎 宏秋

### <総合目標に対する取り組みと反省>

仲良きことは素晴らしい 理想を忘れず楽しくしよう

### <反省>

総合目標を毎朝唱和し、スタッフ同士で積極的にコミュニケーションをとる事で何でも相談できる環境作りを行いました。

また理想の透析室を掲げ目標達成への努力を行い、楽しみながら少しずつではありますが理想に近づいたと実感しています。

### <透析室目標>

透析室として独立にともない、一部署として確立する。

### <反省>

独立にともない、透析室として確立できるようスタッフ全員努力いたしました。

また今年度は6月に日本透析医学会、11月に九州人工透析研究会で演題発表を行い、自己研鑽と共に内外へ積極的に青雲会病院透析室のアピールを行いました。

### <活動状況>

[透析実績] ※回数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	累計
入院	90	121	158	134	115	103	87	60	72	57	36	73	1106
外来	340	389	344	377	411	394	412	380	380	367	338	349	4481
計	436	510	502	511	526	497	499	440	452	424	347	422	5587

平成25年度末現在。外来透析患者28名・入院患者9名、計37名の維持透析を行い、25年度の延べ透析回数は5587回と毎年更新しています。今年度も地域の重症化透析患者を積極的に受け入れ、延24名の重症透析患者を受け入れました。また新規透析導入患者も7名いました。透析療法以外では、経皮的血管拡張術11例、ビリルビン吸着療法1例、LDL吸着療法1例、腹水濾過濃縮再静注法1例行いました。

### <業務内容>

血液浄化療法、バスキュラーアクセス管理を通し透析患者のサポートを行う。

### <参加研修> (主なもの)

日本透析医学会総会 九州人工透析研究会総会 鹿児島県透析医会総会

### <平成26年度の課題>

平成26年度青雲会はDPCを導入します。重症入院透析患者の受け入れを紹介元病院との連携を密に行いベッド稼働率の向上を図らなければならないと考えます。また診療報酬改定年度でもありますのでコスト意識も高めたいと思います。

## 医療安全管理対策室

医療安全管理対策室長 小鯛 ゆかり

### <総合目標に対する取り組みと反省>

「仲良き事は素晴らしい、理想を忘れず努力しよう」

地域の医療安全ネットワーク推進者として活動し、他の医療機関の安全管理の取り組みなどを参考に、当院の安全管理に努め教育・研修を行ってきました。

「仲良きことにも決まりを守って業務行う」ことで大きなミス、トラブル等もなく笑顔で業務が出来ました。

### <医療安全管理室目標に対する取り組みと反省>

#### <目標>

「知識と技術の向上に努めお互いを大切にしよう」

ミス・トラブルに対して他部署と連携を図り、分析し互いを思いやる対応策ができました。医療安全研修会や他の施設の医療安全管理者と情報共有を行うことで、知識技術を高め、職員教育に生かすことができました。

#### <業務内容>

医療安全に関する院内体制の構築に参加し、各部署・委員会が円滑に運営出来るよう支援してきました。インシデント以外の情報収集をラウンドで行い医療事故防止に努めています。医療安全における職員教育、個人指導を行ってきました。

#### <活動状況、>

1. ヒヤリハット報告分析・再発防止の取り組み
2. 院内ラウンドチェック（転倒転落防止回診。）  
（所属長又はリスクマネージャーと現場確認及び原因追究）
3. リスク情報誌の発行
4. 各所属のリスクマネージャーの取り組みへの参加や相談
5. 安全管理における教育研修
6. 始良・伊佐 医療・看護情報ネットワーク拠点病院担当

#### <今後の課題>

昨年度から地域の医療案情報ネットワークの拠点病院として活動し、各施設の安全管理の取り組みや、医療管理者としての知識を蓄える事ができたので、少しでも当院の質向上につなげたと思います。これらの活動、研修を活かしスタッフ教育を行い、さらに青雲会病院の事故防止対策を取り組んでいこうと思います。11月からインシデントシステムを導入し、使用効果を高め効率良いシステム管理にできるよう頑張っていきたいと思います。

## 人間ドック室

人間ドック室室長 岩永 みすず

### <平成 25 年度病院総合目標に対する取り組みと反省>

目標：「仲良きことは素晴らしい 理想を忘れず楽しくしよう」

反省：感謝の気持ちや挨拶など、笑顔での対応ができコミュニケーションを深め、情報の共有や声掛け、そして互いが協力し合い青雲の志を忘れず業務ができました。

### <平成 25 年度人間ドック室目標に対する取り組みと反省>

目標：「お互い自己研鑽に努め AUTO-S を活用し働きやすい職場づくりに努める」

A・・・ありがとう U・・・嬉しいです T・・・助かります

O・・・お疲れ様です S・・・さすがです。素敵です。素晴らしいです。

反省：専門性を高めるため院内の専門職員や、院外からの講師を招き勉強会を開き知識と技術の向上に努めました。また人間ドック学会参加や研修会の参加も行い報告会にて知識の共有を深めました。働きやすい職場作りとして、AUTO-S の活用は活発で、笑顔を決やさずありがとうの感謝の気持ちもよく伝え合っていました。終礼時に、スタッフの見習いたいと思ったことや助けてもらったことの感謝の気持ちを素直に伝える場を作りました。互いが流石、素晴らしいという気持ちから、自然と拍手が起きるなど人間関係も良くなりました。

### <活動状況、業務内容>

平成 25 年度受診者総数	6,132 名
1 日ドック	2,363 名
1 泊 2 日ドック	67 名
脳ドック	99 名
全国健康保険協会・生活習慣病予防健診	1,796 名
健康診断	759 名
乳がんクーポン	55 名
低線量CT肺がん検査	100 名
特定健診	835 名
保健指導	58 名

### <今後の課題>

健診後のフォローアップや精密検査の受診率向上に努めたいと思います。

## 4 階病棟

4 階病棟師長 五反田 良子

### <総合目標に対する取り組みと反省>

目標 「仲良きことは素晴らしい 理想を忘れず楽しくしよう」

とても良いチームワークで一年間仕事が出来ました。

職員間のトラブルもなく、助け合う気持ちが常にみられていました。

口腔ケアの充実と、呼吸ケアや化学療法の学習や実践などのスキルアップに病棟全体で取り組みました。

### <病棟目標に対する取り組みと反省>

目標 「思いやる気持ちをもち働きやすい職場で満足のいく看護を提供する」

笑顔で働きやすい職場作りにスタッフ一丸となって取り組みました。

特に新人スタッフの教育は、一部の教育係に任せきりにせず、全体で育てる意識が定着してきました。離職もなく良い一年でした。

今の看護に満足せず、更なるスキルアップを目指します。

### <活動状況・業務内容>

看護体制 7：1 の一般病棟で定床が 50 床です。

看護方式は、固定チームナーシングと機能別看護を取り入れています。

### 《ベッド稼働率》

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
%	93.2	92.4	91.7	94.7	91.1	88.4	91.3	84.9	86.4	95.0	82.8	89.8

《平均ベッド稼働率》 90.2%

### <今後の課題>

来年度より D P C 病院となります。

ベッドコントロールや 7：1 看護の維持など、良好な病棟運営に努力します。

「この人と働きたい」「この人に看護されたい」と思われるようなスタッフを増やしていきたいと思えます。

## 5 階病棟

5 階病棟師長 町田 美英子

### <総合目標に対する取り組みと反省>

目標 「仲良き事は素晴らしい、理想を忘れず努力しよう」

職員同士が仲良く、それぞれが立てた目標が達成できるよう、取り組めたと思います。また、時間短縮・コストダウン等の5S活動、接遇にも力を入れた一年でした。

### <病棟目標に対する取り組みと反省>

目標 「知識と技術の向上に努め、チームワークで仲良くしよう」

化学療法・呼吸ケア・褥瘡・ストーマ等、チームで協力しあい課題に取り組みました。

受け持ち看護師としての意識も、以前より高まり受け持ち患者さんとのかわりが増えました。

### <業務内容・活動状況>

看護体制 7:1 の一般病棟で定床が 50 床です。

看護方式は、固定チームナーシングと機能別看護を取り入れています。

### 《ベッド稼働率》

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
%	94.1	94.2	90.3	93.8	92.7	85.2	89.5	79.1	85.6	93.5	88.7	86.8

《平均ベッド稼働率》 89.5%

### <今後の課題>

平成 25 年度は電子カルテがバージョンアップし、とまどいながらも早く慣れる様に努力しました。また業務は煩雑ですが、お互い協力し合っただけでなく定時に帰れるように意識しました。今後、7:1 看護を維持すべく、看護師数が確保できるよう、そしてベッド稼働率アップにつながるよう連携をとってまいります。

## 6 階病棟

6 階師長 上野 圭子

＜病院目標に対する取り組みと反省＞

＜病院目標＞仲良きことは素晴らしい 理想を忘れず努力しよう

＜反省＞リハスタッフと週 1 回患者の移乗方法や日常生活動作向上の勉強会を継続して行い、また栄養管理室のスタッフにもバイキングを計画してもらうなど他部所とも仲良く協力し頑張った 1 年でした。

＜病棟目標に対する取り組みと反省＞

＜目標＞職員同士がお互いを大切にし、満足のいく看護を提供する。

＜反省＞スタッフの少ない大変な時期がありましたが、みんなで声を掛けあい業務改善を試み時間内に業務を終了するように努力しました。患者さんには、青雲会対応用語を使用する努力を続け、また会いたいと思われるよう接遇に努めました。

＜活動状況・業務内容＞

看護体制は、15：1 で 2 交代制(日勤 8：30～17：30 夜勤 16：30～9：00)をとっています。また専任医師 1 名、専従 P T 2 名、O T 2 名の構成で回復期リハビリテーション入院料 3 を算定しています。

＜ベッド稼働率・在宅復帰率＞

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ベッド稼働率 (%)	97	98	93	92	88	87	87	86	90	97	91	89
在宅復帰率 (%)	100	65	88	75	62	63	80	55	54	83	69	50

平均ベッド稼働率～91% 平均在宅復帰率～70.3%

＜今後の課題＞

入院期間の見直しで在宅復帰率とベッド稼働率は、大幅に伸びました。月によって変動はありますが今後も継続していきたいと思います。また、来年度は一般病棟の D P C も始まりますので、病棟との連携を今以上に強化していきたいと思います。

## 栄養管理室

栄養管理室室長 川野 亜紀子

### <総合目標に対する取り組みと反省>

(目標) 仲良きことは素晴らしい 理想を忘れず楽しくしよう

(反省) お互いさまの気持ちを忘れず、人手不足の時期も協力することができました。

### <栄養管理室の目標に対する取り組みと反省>

(目標) 謙虚な姿勢と気配りを忘れず、笑顔で仕事を楽しもう

(反省) 栄養療法は栄養素そのものが病気を治療するものではありません。人間が備えている自然治癒力を高めるものです。治療の一端を担っていることを忘れず、仕事に誇りをもって安全で安心できる食事の提供に努めました。その一つとして6月から化学療法等で食欲のない方のための食事の提供を始めました。パンやアイスなど4種から選択できます。「食べられた」との報告が栄養管理室では一番の喜びです。個別対応が必要と判断された患者さんに対し、もっと積極的な栄養療法にと組みたいと思います。

### <業務内容>

- \* 入院患者さんの食事の提供・栄養管理
- \* 外来患者さんの食事・栄養指導、栄養相談
- \* 人間ドック受診者の食事提供・栄養相談
- \* 職員の食事の提供

### <活動状況>

#### 《給食管理》

提供食事数 《患者》一般食 62,709 食/年 特別食 56,450 食/年 合計 119,159 食/年

嗜好調査 8月・2月実施

行事食 68回/年(郷土料理、お弁当の日、握りずしなど)

選択メニュー 常食を対象に火曜・木曜・土曜の週3回、朝食・夕食時実施

《栄養管理》 栄養指導件数 112件/年

### <今後の課題>

- \* 栄養指導件数を増やし、継続的な栄養療法を実施します。
- \* 患者さんに必要な情報提供を行います。

## 企画地域連携室

企画地域連携室 室長 川井田 富士子

### 《総合目標に対する取り組みと反省》

「仲良き事は素晴らしい、理想を忘れず努力しよう」

総合目標を毎朝唱和することで、部署内に笑顔が多く見られました。

院外研修に参加し、企業の考え方等を取り入れ、職員教育の見直しに努めました。

### 《平成 25 年度 企画地域連携室の目標に対する取り組みと反省》

「協力し合い楽しく仕事をする」

多忙な時も笑顔を忘れず、お互いに助け合いの声掛けをし、良い雰囲気楽しく仕事をする事が出来ました。

### 《業務内容》

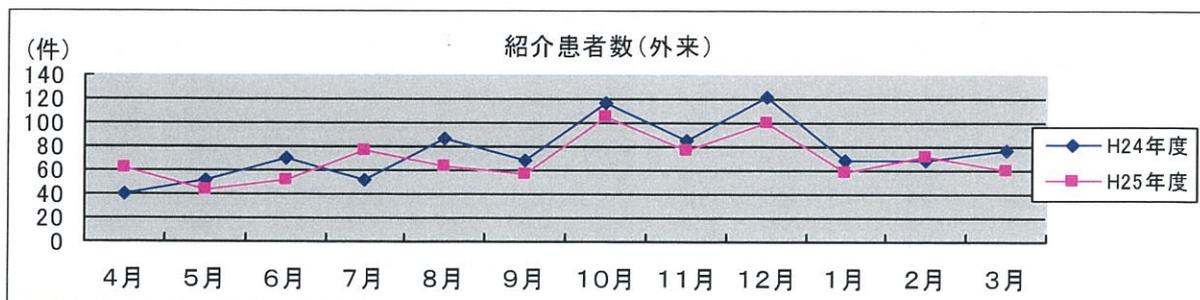
企画は、毎週火曜日に企画委員会を行い、病院運営に必要な広報・宣伝活動の計画を立て、それぞれに役割分担をし、活動しました。

MSWは、患者・家族の相談対応、入退院・転院調整、施設への入所調整等を中心に行いました。また、院内外の連携窓口として多くの対応を行いました。

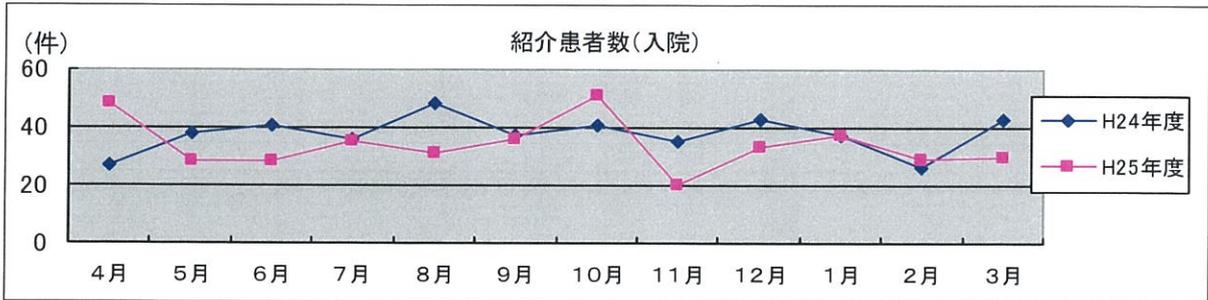
### 《活動状況》

企画は、今年度はホームページの一新、改善をしました。PCだけでなく、スマートフォンでも病院ホームページを閲覧できるようにし、病院の特徴や診療科の体制がすぐ分かるようにしました。また、職員の活動や、院内イベントも多数公表し、職員募集にも繋げました。接遇や5S活動は、更なるレベルアップの為の勉強会を行い、職員教育をしっかり行いました。

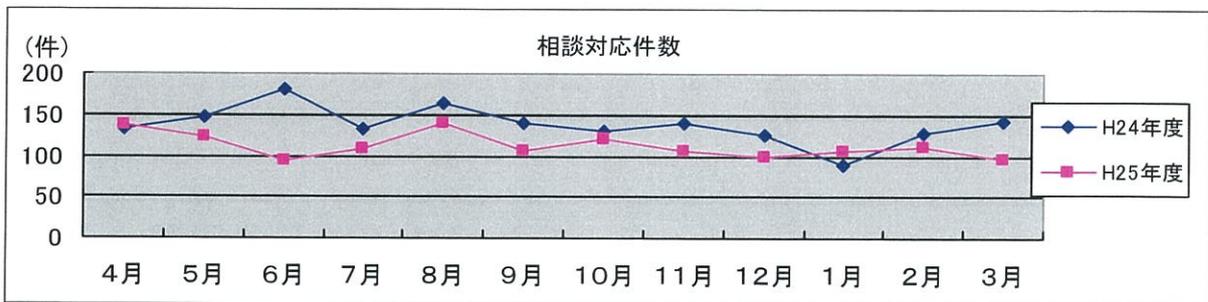
MSWは本年も病棟担当制とし、患者・家族からの相談に迅速に対応するように努めました。また、青雲荘や外部機関と連携をとりながら、入院患者の転退院調整を行いました。今後も、他部署との情報交換・連携強化に努め、円滑な支援・連携を行っていきます。



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H24年度	40	52	70	52	86	68	117	85	122	69	69	77
H25年度	61	44	52	77	64	56	105	77	100	58	71	60



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H24年度	27	38	41	36	48	37	41	35	43	37	26	43
H25年度	48	28	28	35	31	36	51	20	33	37	29	30



相談対応件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H24年度	132	148	180	132	165	140	130	139	126	90	128	142
H25年度	138	122	95	109	139	105	120	106	100	107	111	96

### 《今後の課題》

来年度の目標は「笑顔で迎え笑顔で見送る連携室」としました。

MSWには、日々多くの相談があります。それぞれの抱える問題は多種多様ですが1人でも多くの方々に笑顔になっていただけるような支援、窓口作りを目指します。院内外の研修にも積極的に参加し、専門職としての知識・技術の向上に努めます。また、今年度からは、近隣の医療機関、介護保険事業所へ定期的に訪問させていただき、face to faceでの連携、コミュニティネットワーク作りをしていきます。

企画は、基本方針である「最期は青雲会病院でと言われる病院作り」の実現を目指します。その為に、来院される全ての方を笑顔で迎え、笑顔で見送ります。さらに、職員一人一人が接遇で目指している「また会いたいと思われる私」を実現できるよう、今後も指導致します。

## 薬 局

薬局長 徳永 浩美

平成 25 年度は薬剤師 4 名、助手 1 名で業務を行いました。

### <今年度の目標>

持参薬の管理

服薬指導の充実

### <業務実績 1 カ月平均>

院外処方箋枚数	3124 枚	院内処方箋枚数	289 枚
院外処方率	91.5%		
入院処方箋枚数	947 枚	入院注射処方箋枚数	5116 枚
薬剤管理指導件数	240 件		

院外処方箋は、カルテと処方箋との確認を行ない患者さんにお渡ししています。調剤薬局からの疑義照会の電話は薬局で受けて、その旨を担当医師へ伝えています。

持参薬の管理は薬局で行ない持参薬の鑑別、コンプライアンスの確認、持参薬継続の場合、一包化しています。持参薬の電子カルテへの入力・表示などはまだ円滑ではありません。

### <薬剤管理指導業務>

薬剤師 4 名になったため、服薬指導は週 60 件月 240 件と増えました。

### <研修会等への参加>

鹿児島県病院薬剤師会研修会、始良地区薬剤師研修会、鹿児島 ICT ネットワーク、医師会病院薬物療法研修会などへ参加し、日本病院薬剤師会生涯研修認定を受けました。

### <各種委員会への参加>

院内感染対策委員会・医療安全対策委員会・ICT・NST・広報委員会・薬事委員会などに所属し活動しています。

### <今後の課題>

持参薬の管理を円滑に行っていきます。

DPCが始まるので後発品への変更をスムーズに行います。

## 放射線科

放射線科 科長 本中野 政隆

### <総合目標に対する取組みと反省>

(目標) 仲良き事は素晴らしい 理想を忘れず楽しくしよう

(反省) 医療技術を磨くとともに、相手に対する思いやりとコミュニケーションにより、職場内に笑顔でありがとうの連鎖ができたと思います。

### <放射線科目標と反省>

(目標) 丁寧で分かり易い検査説明を行なう

(反省) 「患者さんの立場で考える」を基本に取り組みました。説明時に患者さんの表情や状態を把握すると共に、納得と同意を確認しながら、より安心して検査に臨んでいただきました。

### <業務内容>

一般撮影(胸・腹・骨・乳房)、透視、CT、MRI、血管造影などの検査を行い、全診療科へ診断画像として提供しています。本年度は充実した医療体制の一環として、時間差勤務を取り入れ日々、業務に励んでいます。私たち技師5名、より多くの画像情報が提供できるよう日々努力し、患者さんがいつでも安心して検査を受けられるように、各講習会に参加し専門知識の向上に努めています。また、夜間や休日は待機体制を起用し、24時間体制で救急時の撮影を行っております。

### <活動内容>

患者さんにより安全に安心して各検査を受けていただけるよう、詳しい検査説明・丁寧な応対・撮影室、環境整備の配慮を行いました。また、適切で正確な画像が提供できるよう各講習会・研修会に参加し、撮影技術の向上と専門知識の習得に努め、より明確で精度の高い画像情報を提供しました。

### <今後の課題>

診療放射線技師は放射線を用いる専門職であり、医療機関における多岐の検査や治療に携わっています。ゆえに、画像診断や撮影技術、機器の構造・原理に関する知識向上はもちろんのこと、患者や家族への接遇やチーム医療における連携・コミュニケーションが必要不可欠です。

## 臨床検査科

臨床検査科科长 永田 進

### <目標>

病院総合目標：仲良きことは 素晴らしい 理想を忘れず 楽しくしよう  
臨床検査科目標：笑顔を手がけ 自己研鑽と新人教育に努め みんな協力  
しよう

### <取り組み・反省>

毎年の取り組みですが病院・検査室の基本方針や目標をポケットサイズにしたものをラミネートしてスタッフへ配布、毎日の朝礼で唱和をして意識付けをしています。仲良く楽しく仕事をするために、検査室の目標である笑顔を心がけるようお願いしました。また新人を含めスタッフへの教育の徹底のため、現状に満足することなく理想を目指して頑張りたいこと、そしてみんなで協力して物事を成し遂げて欲しいために目標に掲げましたが、完全ではないようです。これからも仲よし集団ではなく、理想を目指して自己研鑽に努め、仲良く楽しく仕事ができるよう取り組みたいと思います。

### <業務内容・活動状況>

- ・臨床検査機器 49 台と臨床検査システム機器 38 台で臨床検査 223 項目の院内検査を実施しています。
- ・平成 25 年 7 月からデジタル脳波計の院内開始となり、脳波検査の結果報告は紙報告から電子カルテの各端末へ変更になりました。
- ・平成 25 年 10 月から CD 抗原&トキシン、ノロウイルス抗原の院内検査開始となりました。
- ・平成 26 年 3 月に免疫化学検査機器 HISCL5000 へ更新しました。
- ・臨床検査機器が故障しないように定期的に保守点検を実施しています。
- ・日常の内部精度管理はもちろん医師会精度管理の参加結果についても特に問題はありませんでした。
- ・毎月臨床検査適正化委員会で医師と各部署への情報提供をしています。

### 業務内容実績（検査件数・輸血単位数）

業務内容	生化学検査	血清学検査	血液学検査	一般検査	微生物検査	生理学検査	輸血単位数
H25 年度	15217	8527	15923	8044	933	13909	1002
H24 年度	13646	7906	14669	7250	856	12061	740

### <今後の課題>

今年度も検査から健診へ所属が移動になる技師がいたましたが、そのため経験者の技師が入職してくれました。しかし経験者でも機械やシステムが違うので早く慣れて欲しいと思っています。現在臨床検査科所属の技師は 5 人ですが、今でも多くの院内検査を実施していますが、さらに発展させてくれる人材育成がこれからの課題です。

## リハビリテーション部

リハビリテーション部 部長 前田 昭宏

《総合目標、部署目標の取り組みと反省》

(総合目標：笑顔に勝る喜びは無し 理想に向かって努力しよう)

(部署目標：患者さんに希望と喜びを提供できるように職員間の連携を深める)

患者さんの笑顔と希望そして信頼を得られる治療を提供できることを理想と考え、その為の研鑽の場をリハビリテーション部の学術部で提供しました。リハビリテーション全体の質の底上げは出来ましたが、セラピスト間の技術の差、意欲や熱意に大きな個人差があり今後の課題となりました。この問題の解決には、職員個別の指導を多く取り入れる事が大切だと考え、現実問題として、業務時間の中でその個別指導の時間を作る為の工夫や改善を考えていかなければと思っています。

次に、職員間のコミュニケーションは良くとれていました。笑顔も絶えず組織全体がまっとうしており良かったと感じています。しかし、まだまだ業務量が多く負担が大きい部分があるので、来年度は業務改善に取り組み、業務のスリム化、患者さんの治療に専念出来る環境、さらに笑顔のある働きやすい職場を目指しリハビリテーション部全体で取り組んでいきます。

《業務内容》

平成 25 年度リハビリテーション部は、理学療法士 33 名、作業療法士 21 名、言語聴覚士 6 名、マッサージ師 2 名、助手 1 名、合計 63 名の職員で業務を行いました。

業務改善の取り組みと今後の課題について報告します。業務改善では、入院退院時の書類関係のチェックリストの作成、新患の振り分けをする係りの一本化、作成書類の見直しなど行いました。これら改善の取り組みにより、作成書類のミスの軽減、他職種間の連携深めることが出来、結果、仕事の効率性が向上し業務時間の短縮につながったと考えています。しかし、まだ改善が根づいていない機能していない部分もあり、26 年度の医療改定による書類等の負担なども考えられるので、引き続き職員の業務負担軽減を考えて業務改善に取り組んでいきます。

## 《活動状況》

リハビリテーション部内学術活動として、25年度は学術研究部発表を年間10演題以上と目標を掲げました。本年度は13演題の発表ができ目標を達成できました。来年度はより多くの演題発表を奨励し、当院の活動をしっかり啓蒙しなければならないと考えています。

次に、リハビリテーション部の質の向上と底上げを目標として、勉強会を各班で月2回以上（ケーススタディー、学術勉強会、ハンドリング技術向上勉強会）、リハビリテーション部内学術グループで月2回以上（ケーススタディー、学術勉強会、ハンドリング技術向上勉強会）、

リハビリテーション部全体で月1回ずつ、正常動作勉強、症例検討会、週1回のハンドリング技術向上のための勉強会などを実施しました。

また、学術部主催外部研修会は、年間合計16回開催し、また今年度初めて3週間の長期講習会も開催しました。県内外から合計500名以上多くの参加者があり当院の啓蒙に繋がったと思っています。3週間の長期講習会では病院と全体からの多大な協力、援助により無事成功することができ本当に感謝しております。論文抄読部の活動では英論文の抄読にチャレンジしましたが継続が難しく、再度活動内容の見直しを行い来年度は活動を盛んにしたいと考えています。その他にも、研修会や研究会などに多くのリハビリテーション職員が参加し、講師を務めるなど活動の場を広めることが出来てきました。

\* 詳細は別紙参照

## 《今後の課題》

- ・書類作成など、業務量の軽減による負担軽減
- ・職員間の業務に対する熱意と意欲の温度差
- ・セラピストの知識・治療技術の格差

以上の課題を解決出来るよう来年度も改善を続けていきます。

## 総務部

総務部長 畠中 泰教

### 《総合目標に対する取り組みと反省》

「仲良き事は素晴らしい、理想を忘れず努力しよう」

総合目標を毎朝唱和していたおかげで部署内に活気が出たうえ、お互いに声掛けして協力し合える体制がさらに強化されました。

### 《平成 25 年度総務部の目標に対する取り組みと反省》

「報連相は自己判断せず情報を共有し無駄のない仕事をする」

細かな報連相がしっかり出来ていない時期もありましたが、終礼をすることで情報の共有化を図ることが出来ました。

### 《業務内容》

施設基準の管理、関係諸官庁への届出、医療用機器及び医療ガスの管理、電子カルテ・院内LANのシステム管理、設備管理、委託業者管理、医療廃棄物管理、保険に関する事項、医局や大学に関する事項、未収金管理、院内行事に関する事項、選挙管理、人事労務管理、福利厚生に関する事項、決済・稟議、契約管理、公印管理、慶弔関係、防火・防災・防犯に関する事項、経理業務補佐。

### 《活動状況》

指示を受けた際は素早い行動を心がけました。職員募集に関してはハローワークや人材紹介会社と連携を取りました。社会保険・雇用保険などの確かな通知を心がけました。職員給与関係については、給料日が 20 日に変更になり余裕を持って取り組みました。

施設基準の管理も正確に行いました。設備管理も現場に迷惑が掛からないよう取り組みました。委託業者との連携を図り指導すべきはしっかり指導出来たと思います。未収金管理については顧問にもアドバイスを頂きながら取り組みましたが、行方不明もあり回収の見込みが立たない案件が残りました。SPDに関しては納入価格の見直しが不足し予定の利益を確保できない状況が続きました。

### 《今後の課題》

医療・介護に関する情報を集め、市場の変化に即応した活動が出来るようスキルアップに努め、青雲会の向上発展に貢献していきます。また、職員の入れ替わりが多いので求人募集に関してコントロール出来るようになります。総務課はマンパワーの必要性を感じることもありますが、常に改善策を考え効率の良い業務が出来るよう努力します。

## 総務課

総務課主任 野田 鉄平

### 《総合目標に対する取り組みと反省》

総合目標「仲良き事は素晴らしい、理想を忘れず努力しよう」

総合目標を毎朝唱和していたおかげで部署内に活気が出たうえ、お互いに声掛けして協力し合える体制がさらに強化されました。

### 《総務課目標に対する取り組みと反省》

総務課目標「一人は皆の為に 皆は一人の為に 今日笑顔で頑張ろう」

周りの状況を気遣いながら業務に取り組んだ成果として、お互いに何か手伝えることはないか声をかけるようになりました。その結果、共有できる仕事は部署全体で取り組み仕事の効率が上がりました。課題は、業務改善を行い、残業時間を短縮することです。

### 《業務内容》

主な業務は社会保険・経理・施設管理・施設基準に関すること  
業務全体における改善・見直し  
ホームページの見直し  
広報・企画に関すること  
環境整備  
コスト削減

### 《活動状況・研修》

ホームページの見直し  
ノー残業デイ  
経営幹部塾参加 ～鹿児島経済研究所主催～  
全日本病院学会参加 ～「ムリ・ムラ・ムダ無くして楽する青雲会」～

### 《今後の課題》

病院の経営改善を他部署と協力して実行する。

- ・経理部門の業務改善
- ・診療報酬改定の動向を読み取り、施設基準の正しい管理と届出をする。
- ・コスト削減
- ・ホームページの有効利用

## 経理部

経理部長 中村 喜久春

### <総合目標に対する取り組みと反省>

「仲良きことは、素晴らしい 理想を忘れず 楽しくしよう」  
挨拶を心掛けて声掛けを行っていきました。

### <経理部の目標に対する取り組みと反省>

「笑顔で挨拶をして 迅速・的確な報告をしよう」  
病院新築移転5年目を迎え安定した収入の確保と支出の削減を図りました。  
そのために 各部署からの実績報告を分析して、迅速・正確・的確に報告するように心掛けて月々の試算表を期限内にまとめ上げるようにしました。

### <業務内容と活動状況>

- ① 予算管理(中長期計画・事業計画の作成)
- ② 実績管理
- ③ 月次試算
- ④ 資金繰りの円滑化
- ⑤ 税務申告書の作成

### <今後の課題>

会計5Sを心掛けていきます。

- ① 整理 業務の流れを整理して、必要な資料、不要な資料、足りない資料に分けます。
- ② 整頓 資料をファイリングして調べやすくし、いつでも取り出せるようにします。
- ③ スピード 月次試算を早く終わらせて、実績把握をスピーディーに正確に行っていきます。
- ④ スリム 実績を把握したら、不要なものは削減し、今後の計画を見直していきます。
- ⑤ しつけ 決めたルールを守り、経理の流れを定着させていきます。

## 医事課

医事課課長 貞 洋子

### <平成 25 年度の病院総合目標に対する取り組みと反省>

「仲良きことは素晴らしい、理想を忘れず楽しくしよう」

全員が一つの目標に向かっていけるように、会議で意見交換するようにしました。少しずつではありますが、意見が出るようになったと感じています。(医事課)

コミュニケーションを図り良い人間関係を築くことが出来ました。そして、必要とされる医師事務作業補助者になるべく、日々の業務に取り組んできました。(医師事務)

円滑なコミュニケーションをとれる努力を行い、日々の業務に取り組んできました。(診療情報管理室)

### <平成 25 年度の各部署の目標に対する取り組みと反省>

「お互いを認め、心をひとつにし、笑顔で前進しよう」

コミュニケーションを図りお互いの考え方を知るようにしました。部署内の雰囲気をよくし、心からの笑顔で患者対応ができるように努めました。

(医事課)

他職種との意見交換や情報共有を行うことによって、円滑な業務を行うことが出来ました。(医師事務)

常に笑顔を心掛けました。(診療情報管理室)

### <活動状況、業務内容>

接遇の取り組みについて、念願の部署表彰されたことが一番の成果です。また、個人接遇表彰者が 3 年連続で出たことは喜ばしいことでした。全体のレベルをさらに上げていきたいと考えています。電話コンクールは 2 名出場し、2 名共に入賞することが出来ました。本人たちの努力はもちろんの事、青雲会の接遇教育が活かされたのではないかと考えます。次年度の DPC 算定に向け、DPC 担当者を 1 名配置し、病棟担当者と共に DPC 算定病院に向け、情報交換を行いました。(医事課)

平成 25 年度は 2548 件の書類代行記載（診断書・意見書など）を行いました。(医師事務)

診療情報管理室の主な活動は、円滑な診療録の運用管理、診療情報の収集・診療録開示、正確な DPC データの提出等があります。DPC 導入に伴う準備作業を行いました。(診療情報管理室)

### <今後の課題>

DPC 業務の改善を図りつつ、残業短縮に取り組んでいきたいと考えています。青雲会の人財育成を含め、次世代のリーダー育成も急務です。(医事課) 増え続ける医師の事務作業に対応できる幅広い知識の習得や、専門知識のレベル向上を図ることが重要だと考えます。(医師事務)

診療情報管理室の課題としては、診療情報管理体制加算 1 を算定できるように業務の見直し等を行ってまいります。(診療情報管理室)

# 会議・委員会報告

## リスクマネジメント委員会

### <目的>

- ①患者さん1人1人に安全、安心な医療サービスを提供出来るよう安全管理に関する意識を高める。
- ②組織全体で事故防止を行う。
- ③スタッフが安全に業務を行えるように、安全管理における指導・教育を行う。

### <開催日>

毎月第4木曜日（リスクマネジメント委員会）  
週1回（ミニリスク委員会）

### <構成メンバー>

委員長＝医療安全管理対策室長

外来・病棟看護師 放射線科 薬局 医事課 リハビリテーション部  
臨床検査科 栄養科 人間ドック

### <活動内容>

リスクマネジメント委員会では、各リスクマネージャーは医療安全管理委員会において決定した方針、医療事故対策、改善策等を行い現場に周知徹底させると共に、相互に連携した情報交換を行っています。各リスクマネージャーは現場で実働的役割として安全管理を行っています。KYTやSHELLモデル分析など行い新人教育やスタッフの安全教育に力を入れて活動しています。

ミニリスク委員会では、ヒヤリハットレポートに関連した部署のリスク担当が集まり協議し再発防止に努めています。

### <今後の反省と課題>

平成25年度は内服・転倒転落・摂食嚥下など他の委員会と協働で、安全対策を行ってきました。しかし、内服のヒヤリハットが30件増え、本年度は、医師、看護師、薬局等との分析、協働対策を強めると共に、個人の安全管理の意識付け（個人指導）を強化していきたいと思います。常に「患者さんの為に」という思いで対策や教育をおこなっているリスクマネージャーのモチベーションを下げることなく、安全の意識を更に高め、「患者さんの為」「スタッフの為」に青雲会病院の安全文化を構築していきたいと思います。

## システム管理委員会

### <目的>

院内のシステム（電子カルテシステム、院内LAN等）の管理、運用改善、トラブル発生時の対策等

### <開催日>

毎月第2木曜日

### <構成員>

院長、副院長兼看護部長、医師、各部署所属長、システム委員

### <活動内容>

- ① 院内システムの管理体制について協議
- ② 院内システムの運用の改善・審議
- ③ トラブル発生時の対策方法の検討
- ④ 個人情報を含む情報漏洩に対する対策
- ⑤ 院内システムの周知徹底
- ⑥ 電子カルテシステムの更新

### <反省>

平成25年6月17日から新しい電子カルテシステムを導入しました。準備期間から、医師をはじめ各部署の協力を得て大きな問題もなく運用しています。今後は、新システムの運用について各部署の要望・改善点を反映し、より良いシステム環境を作っていきたいです。

### <今後の課題>

- ・新電子カルテシステムの改善
- ・設置環境の整理整頓
- ・トラブル発生の防止と素早い対策
- ・平成26年度診療報酬改定に向けた準備

## 院内感染対策委員会 感染管理対策チーム（ICT）委員会

### <目的>

感染対策は、すべての医療スタッフが感染予防策の必要性を認識して日常診療に実践することが必要です。院内感染対策委員会は、院内における感染の発生防止のために対策立案を実施し、ICT委員会は感染対策の実動部隊として早期発見と拡大防止に努めています。

### <開催日>

院内感染対策委員会：毎月第3月曜日18時30分

ICT委員会：毎月第4金曜日14時00分

### <構成メンバー>

院内感染対策委員会：院長、副院長、医局長、各所属長もしくは代表者

ICT委員会：医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、総務職員

### <活動内容>

- ① 院内感染対策委員会・ICT委員会の実施
- ② 病棟ラウンドによる感染症と環境の監視
- ③ サーベイランスの実施と問題点の改善
- ④ 院内感染対策マニュアルの改訂
- ⑤ 患者・職員への情報誌の作成
- ⑥ 職業感染対策の実施
- ⑦ 職員教育の実施
- ⑧ 感染防止対策合同カンファレンスへの参加

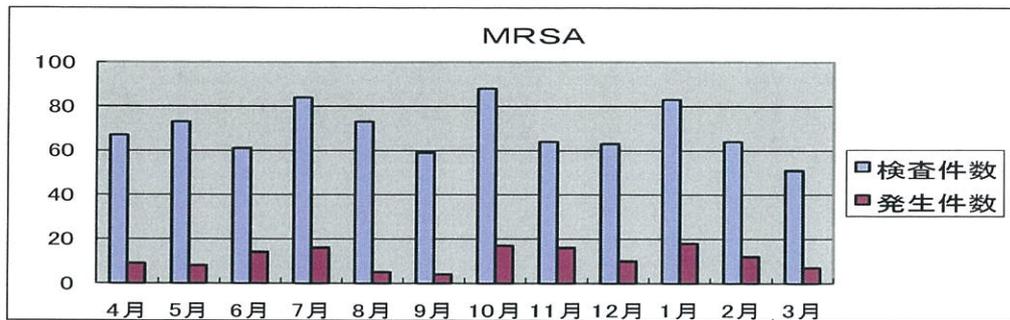
院内感染症対策を推進するために平成24年度から感染防止対策加算が新設され、当院は感染防止対策加算2を届出しています。少なくとも年4回程度、感染防止対策加算1を算定する医療機関との合同カンファレンスが必要です。これは各病院の感染症情報や環境改善を共有することが目的で、今年度から鹿児島大学が主体となって実施しているサーベイランスの報告をするようになりました。

### <反省>

ICT委員会は30分以内に会議が終わらない場合があるので終わらない場合は、ICTラウンドで協議するようにしたいと思います。

<今後の課題>

I C T業務の中心になる医師が、ラウンドや委員会に参加出来ていない状況の改善や感染防止対策加算1を取るための準備として、I C D(感染管理医師)かI C N(感染管理看護師)が専従になる必要があるため感染管理専従の看護師を育てていく必要があると思います。



H25年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検査件数	67	73	61	84	73	59	88	64	63	83	64	51	830
発生件数	9	8	14	16	5	4	17	16	10	18	12	7	136
発生率	13	11	23	19	7	7	19	25	16	22	19	14	16

## 医療安全管理対策委員会

### <目的>

医療の安全確保と医療の質向上

### <開催日>

毎月第4木曜日

### <構成メンバー>

委員長：院長 副委員長 薬局長 医療安全管理対策室長

書記：リハビリテーション部次長

各所属長

### <活動内容>

- ・院内で起きたインシデント・アクシデントについて、各部署ともに協議しています。その結果を関係各部署へ通達し、院内での情報共有を行うことにより、事故の再発防止に努めています。
- ・リスク情報の発行  
インシデント、アクシデントに対して全職員が情報を共有することで、安全に対する意識の向上を目指し、リスク情報を発行しています。
- ・年2回 医療安全研修会  
病院全職員の安全意識を向上させるため、研修計画を策定し開催しています。
- ・院内ラウンド  
医療現場に潜むリスクを把握して医療環境の調整を行うことを目的に、定期的に安全点検の巡視を実施しています。

### <院内研修>

- ① チームで取り組む医療安全  
鹿児島市立病院 医療安全管理室長 植田みよ子先生
- ② 医療・介護現場における事故の現状と対策について  
東京海上日動火災保険株式会社代理店 有限会社益満

<反省・今後の課題>

平成 25 年度のヒヤリハット報告 518 件

誤刺レポート 7 件

事故レポート 5 件

25 年度のヒヤリハット件数は、前年度と比べ 24 件減少しましたが、看護部における内服薬の件数が 30 件も増え（影響レベル 0～1 程度）大きな反省となりました。今後、DPC や後発品薬剤、持参薬との関連を分析し、医師・薬剤師との連携を密に行い、未然防止や再発防止に力を入れていきたいと思ひます。

青雲会病院は「組織で醸成する安全文化」を構築し、患者さんやその家族が安心して、治療に望める様、安全管理における能力を高め、「青雲会病院に来て良かった」と思われる、心ある業務を行っていききたいと思ひます。

## 患者サービス委員会

### <目的>

定期的に病棟・外来でアンケートを実施し 患者や家族に満足頂けるよう努力する

### <開催日>

毎月第3金曜日

### <構成メンバー>

各部署代表者

### <活動内容>

入院患者及び外来患者の満足度調査・報告（年2回）

外来待ち時間調査・報告（年2回）

企画委員会と協力しクリスマスコンサート開催（12月25日）

### <反省>

アンケート内容について、前年度と比較し患者さんからの意見が多かった。内容について話し合い、アンケート結果を見やすい様にカラーにして、前回と比較できるよう（前回・今回）工夫をしました。

### <今後の課題>

アンケートの結果をもとに、今後より良いサービスが提供できるように努めます。

アンケート結果の院内表示期間短縮を目指します。

患者さんや家族に元気や喜びを与えられるよう、院内行事の開催に努めます。

## DPC 委員会

### <目的>

DPC 準備病院として、各部署との連携を図り、精度の高い診療情報を収集し、診療情報の分析・評価をする

### <開催日>

毎月第4水曜日

### <構成メンバー>

院長 副院長兼看護部長 総務部長 看護師長 医療安全管理対策室長  
リハビリテーション部 医事課 薬剤師 診療情報管理士

### <活動内容>

データ提出の状況報告  
DPC 導入に向けての準備

### <活動状況>

データ提出の状況報告を受けて、問題点があれば対応しています。  
DPC についての勉強会なども行っています。

### <反省・今後の課題>

26 年度より、DPC 病院へ移行します。移行に向けての準備に多くのご協力をいただきました。今後は提出データの分析が重要になります。分析ソフトの導入を検討していきます。

10 月より、データ提出加算 2 を算定できるようになりました。これまで以上に、精度の高いデータ提出ができるよう、努力します。

## 診療録委員会

### <目的>

医療法人青雲会青雲会病院における診療情報の円滑な管理運営

### <構成メンバー>

院長 副院長兼看護部長 総務部長 看護師長 医療安全対策室長  
リハビリテーション部 医事課 診療情報管理士

### <開催日>

毎月第4水曜日

### <活動内容>

診療録の書式登録及び書式変更登録  
疾病統計表の配布・説明  
診療録記載時の注意  
診療録の監査

### <活動状況>

日々の診療録の点検、各部署からの書式登録変更を受けています。  
問題点があれば、診療録委員会へ問題提起し、診療情報が円滑に管理できるようになっています。また、ICD10に基づいた疾病統計を作成しています。

### <反省・今後の課題>

診療録を点検する能力の向上、記録の重要性の周知、院内で活用できる医療情報の提供、病院経営に反映できる統計作成等があげられます。

数年、定期的な監査ができていません。来年度は必ず実施できる努力をしたいと思います。

電子カルテを使用するうえで、電子保存の三原則「真正性」「見解性」「保存性」をしっかりと担保しなくてははいけません。点検、監査を通して、注意喚起していきます。

## 個人情報保護対策委員会

### <目的>

個人情報 を 正確、安全に取扱い保護する事を社会的責任と考え、適切な管理を行う。

### <開催日>

偶数月第4月曜日

### <構成メンバー>

理事長、愛甲先生（顧問）、院長、医局長、副院長兼看護部長  
各部署所属長

### <活動内容>

- ①個人情報保護法に関する教育、指導
- ②個人情報保護法に関する業務の見直し、検討
- ③外部との連携に関する事等

### <反省>

個人情報保護に関する大きなトラブルはありませんでした。しかし、気をつけなければいけない事例はありましたので会議等で報告し改善するようにしました。また、新入職者、看護学生にも個人情報保護の必要性を説明し、意識づけを行いました。

### <今後の課題>

電子カルテの取扱については、患者情報が漏洩しないように入職時に説明を行っていきます。また、看護学生にも院内で得た情報は院外で口外しないように指導し、個人情報保護に関するトラブル等がないようにしていきます。

## 摂食・嚥下委員会

### <目的>

平成18年より発足し、入院患者さんの口腔ケアから、摂食嚥下機能の評価・訓練、誤嚥性肺炎の予防、嚥下障害の程度に応じた早期経口摂取を目指し、NST委員会と協力し栄養状態の改善を図る。

### <開催日>

毎月第二火曜日

### <構成メンバー>

医師 歯科医師 歯科衛生士 リハビリテーション部 看護部

### <活動内容>

#### ① 病棟看護師による摂食機能療法の算定

言語聴覚士と共同で、病棟の看護師による摂食機能療法実施により、患者さんの嚥下機能回復の促進や口腔機能の維持・改善を努める。

#### ② 看護師による入院時嚥下スクリーニングの実施

院内の誤嚥性肺炎の予防のために、全患者さんに入院時に看護師が嚥下スクリーニングを行う。問題があった場合は医師、言語聴覚士に連絡し、絶食とし、言語聴覚士が再度嚥下の評価を行い、患者さんに適切な食事形態を提供する。

#### ③ 誤嚥リスクの高い「らくのみ」の使用を禁止（売店でも販売中止）

### <反省>

平成25年度も病棟看護師による摂食機能療法が実施されました。開始までに対象患者の選抜、マニュアル配布、介入方法の伝達等、実施までに時間を要し実施件数は少ない状況です。

平成23年7月より全入院患者への嚥下スクリーニングを実施し、院内での誤嚥性肺炎の予防を行っています。しかし、嚥下スクリーニングの実施漏れや、連携ミス等の問題もありました。

### <今後の課題>

病棟看護師による摂食機能療法については、算定開始までに時間を要し実施件数が少ない為状況です。今後、更に連携を図り業務の円滑化、マニュアルを整備していきたいと考えております。また嚥下スクリーニングについては、連携強化を図り、誤嚥性肺炎の早期発見に努めたいと思います。そして、らくのみ使用禁止の徹底、年に2回の嚥下勉強会の充実を図り病棟全体でリスク管理等知識を共有し入院後の誤嚥発生の減少に努めたいと思います。

## 接遇実行委員会

### <目的>

基本方針の「最期は青雲会でと言われる病院作りを目指す」を実現させるため、青雲会の職員全員が同じレベルの接遇ができるようにする委員会。

### <開催日>

第3木曜日（サブリーダー）・第4木曜日（所属長）

### <構成メンバー>

青雲会全管理職者

### <活動内容>

平成25年度は「組織の人財育成、リーダーは率先垂範する」を課題とし、勉強会を行いました。

今年度は、「リーダーは理事長の分身である」ということを自覚することの強化、組織の方向性を伝える伝道師であることを意識付けるようにしました。また、人財育成をするための率先垂範として、委員会内でロールプレイングを行い、朝礼ミニ研修で実践するように指導しました。朝礼ミニ研修の内容は各々で積極的にプレゼンテーションを行い、考える力、伝える力を養う1年となりました。

### <反省・今後の課題>

末端の職員まで共通の価値観を持ち、接遇を行うことが課題です。職員全員が同じ方向を向き、「また会いたいと思われる私になる」という志で接遇に取り組むと、「最期は青雲会病院で」と言われる組織になります。その為に、今後益々、リーダーは「伝える」という指導能力を磨く必要が課題になります。来年度も青雲会を訪れる多くの皆様に喜んでいただける接遇をしていこうと思います。

## 地域医療連携委員会

### <目的>

患者さんを中心に、地域の各医療機関・施設との連携や、院内・法人内の連携を深め、より良い医療を提供する事

### <開催日>

毎月第二火曜日

### <構成メンバー>

医師、副院長、各病棟師長、外来師長、リハビリテーション部部長  
医事課長、総務課主任、青雲荘相談員、居宅所長、医療ソーシャルワーカー

### <活動内容>

毎月の紹介患者報告（登録医・登録医以外）  
開放病床利用率・共同指導、紹介率の報告  
青雲荘入所・通所・居宅状況報告  
他施設との連携報告  
法人内の連携報告  
問題に対する検討  
各部署担当制の勉強会  
その他

### <反省>

毎月目標を決め、構成員が中心となって取り組んだことで、急性期病棟と回復期病棟、青雲会病院と青雲荘、外部機関との連携を円滑に行うことが出来ました。また、各部署でお互いの理解を深める為に、担当制で勉強会を実施しました。これにより、各部署それぞれの役割の共通理解を深める事が出来ました。

### <今後の課題>

委員会を今まで以上に有効活用し、連携に関する情報提供・情報交換を活発に行い、円滑な患者支援に努めていきたいと思っております。

## 防災委員会

### <目的>

- ① 病院内における防災管理業務について必要な事項を定めて、火災・その他の災害予防及び人命の安全、並びに被害の拡大防止を計る事。
- ② 消防設備の点検管理を行い、正しい知識と操作方法を身に付ける。

### <開催日>

毎月第2木曜日

台風が接近した場合及び非常事態発生時は臨時的に行う。

### <構成メンバー>

総務部 医局 看護部 リハビリテーション部 薬局 臨床検査科 放射線科 栄養科  
青雲荘

### <活動内容>

防災訓練（総合訓練）実施（年2回 6月・11月）

消防組合にて開催される消火技術競技大会参加

病院設備における安全点検・事故防止対策

空港航空機事故消火救難総合訓練

始良市総合防災訓練

### <評価と反省>

評価

- ・平成25年度から新しい取り組みとして、毎月、防災目標を設定し各部署で取り組みました。効果として、各部署における防災意識が向上しました。
- ・消防設備の取り扱いについて説明会を開催しました。
- ・消火技術競技大会にも参加。消火器の部で男子優勝、女子優勝。

反省

- ・全職員が初期消火、通報、避難誘導を実践できない。
- ・消防設備の周知不足。

### <今後の課題>

防災マニュアルの更新

防災訓練の内容を見直し充実化

防災教育の徹底

## 薬事委員会

### <目的>

院内で使用する医薬品について、適切な使用の指導等を行い、  
薬剤の有効で経済的な運営を図るための方法を討議する。

### <構成メンバー>

委員長 徳永 浩美

委員	川井田 浩	島内 正樹	平田 晋吾	宮川 佳保
	松原 照征	野口 仁	愛甲 孝	山川 健一
	守山 泰司	坂梨 謙一	川崎 雄三	川本 研一郎
	吉田 輝	田原 稔	市成 浩太郎	田中 実
	安松 英夫	黒岩 宣宏	吉田 栄香	網谷 滋
	徳永 浩美	長野 雅之	上田 彰平	

### <開催日>

毎月第一火曜日、また必要に応じて随時。

### <活動内容>

1. 新規医薬品の採用
2. 在庫医薬品の適切な管理と運用
3. 医薬品の勉強会の実施
4. その他（薬事に関する事項についての審議・検討）

### <今後の課題>

D P Cに向けての、薬剤の後発品への変更を進めます。

## 病床管理委員会

### <目的>

病床の有効活用を目的に、各部署と連携を取り、入退院及び空床状況等を把握、調整し、平均在院日数の短縮と病床稼働率の向上を図る。

### <開催日>

毎月第2月曜日

### <構成メンバー>

委員長 島内正樹（院長）

副委員長 松原（医局長）

書記 本田浩己（病棟師長）

委員

（診療部門）川井田浩、愛甲孝

（看護部門）今村由美子、上野圭子、町田美英子、岩永ミスズ、  
小鯛ゆかり、五反田良子、藤崎宏秋

（コメディカル部門）

前田昭宏、徳永浩美、永田進、本中野政隆、川野亜紀子

（事務部門等）

川井田富士子、中村喜久春、貞 洋子、畠中泰教  
野田鉄平

### <活動内容>

- （1）病床の配置、管理及び運営
- （2）病床利用率の向上
- （3）入退院の適正化
- （4）数値的統計の把握検討
- （5）地域との連携等

平成25年度実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
病床稼働率	94.5	94.6	91.4	93.7	90.9	86.8	89.6	82.9	86.1	95.0	89.3	88.5
単月 在院日数	17日	18日	18日	18日	18日	17日	18日	18日	17日	18日	19日	17日
平均 在院日数	17日	17日	18日	17日	18日	18日						

### <反省>

11月は、82.9%という低い病床可動率の月もありましたが、一年間の平均は、90.3%で、今年度の90%以上の目標は達成出来ました。

開放型病床の運営については、患者の病状、性別等病室の管理が難しく廃止となりました。紹介患者さんは、今まで通り、スムーズに入院が出来るように他部署との連携を行っていきました。

### <今後の課題>

タイムリーにベッドコントロールしていくためには、情報の一元化が必要です。当院は、電子カルテで管理できますので十分に活かし、急性期病院としての役割を果たせるようにしなければいけません。

今後、7対1看護を維持していくためにも、ベッドコントロールは重要です。他部署との連携を十分に行い病床管理が出来るようにしていきます。「最期は、青雲会病院で」といわれる病院づくりを目指します。

## 労働安全衛生委員会

### <目的>

職員の労働の安全及び健康の確保を図るため設置します。次の各号に掲げる事項について調査審議します。

1. 労働環境の安全及び衛生に関する事項
2. 作業条件、施設等の安全及び衛生上の改善に関する事項
3. 安全衛生教育及び職員の安全確保と健康保持に必要な事項
4. 労働災害の原因調査及び再発防止に関する事項
5. その他の職員の安全及び衛生に関する事項

### <開催日>

毎月第4月曜日

### <構成メンバー>

川井田理事長、愛甲先生（顧問）島内院長、松原医局長  
今村副院長兼看護部長、各部署所属長

### <活動内容>

- ・職員健康診断について（再検査、要受診者の対応について）
- ・新人職員へのフォローアップ
- ・目立って残業が多い部署は、特に原因追究し、解決策を講じる
- ・ワークライフバランスについて（働きやすい環境づくりが大切）
- ・メンタルヘルスについて（管理職者は職員の観察が必要）
- ・熱中症予防について
- ・夜間の防犯対策についての対応策
- ・暴言暴力に関する研修会の実施
- ・インフルエンザ感染防止について（手洗い、うがいをきちんと行う）
- ・交通事故防止（ルールとマナー）
- ・針刺し事故防止について

### <反省>

今年度は、針刺し事故8件ありました。決められたことをきちんと守っていなかった事例もあります。自分の健康を守るためにも気をつけてほしいと思います。

インフルエンザは、ワクチンを接種しても罹患した職員は、来年は2回接種するようにします。

### <今後の課題>

- ① 針刺し事故0件を目指します。
- ② 残業0を目指します。

## 倫理委員会

### <目的>

患者さんの権利、医療者の職業倫理を周知徹底し、お互いに信頼関係を持ち、満足して頂ける医療を提供出来るようにする。

### <開催日>

偶数月第4月曜日

### <構成メンバー>

理事長、愛甲先生（顧問）、院長、医局長、副院長兼看護部長、各部署所属長

### <活動内容>

- ①倫理に関する教育・研修
- ②臨床倫理に関する事例検討
- ③マニュアル等の見直し

### <反省>

日常業務を行う上で、倫理に関する場面は多々あります。倫理的課題に対しては、会議等で事例報告し、改善策に努めました。患者、家族、職員がお互いに信頼関係を築き業務を担うことができたと思います。

### <今後の課題>

医療、看護を行う上で倫理的な課題に遭遇する場面は多々あります。しかし、課題を提供する事例が少ない為、今年度は症例数を増やし、共有化することで、今まで以上に倫理観の意識向上を目指していきたいと思えます。

## 臨床検査適正化委員会

### <目的>

臨床検査適正化委員会(輸血療法を含む)は、臨床検査が正確かつ迅速に実施され報告出来るようにする。また検査室と各部署が円滑に業務遂行出来るようにする。

### <開催日>

毎月第3月曜日 18時30分

### <構成メンバー>

院長、副院長、医局長、各所属長もしくは代表者

### <活動内容>

H25/4月：輸血検査業務委託契約書作成

5月：深在性真菌症( $\beta$ -D-グルカン：外注)・輸血情報(抗体スクリーニング陽性)

6月：甲状腺検査(外注)・使用済み輸血バッグ数日保存義務(検査室)

7月：デジタル脳波検査(院内開始)・環境感染学会(ワケガトライン)

8月：特異的IgEセット項目作成(外注)・輸血情報(FFP-LR480)

9月：時間外検尿検査機器検討・輸血情報(輸血口形態追加)

10月：CD抗原トシ検査・ノウウイルス抗原検査院内開始・輸血情報

11月：TP抗体(梅毒)陽性時の検査の流れ・輸血情報(輸血関連急性肺障害)

12月：年末年始情報・Mg 院外検査へ変更・新人時間外当番開始情報

H26/1月：血液像異常時目視検査実施・免疫化学検査機器更新情報・輸血情報

2月：特異的IgE検査MAST36(外注)・鹿児島県合同輸血療法懇話会報告

3月：免疫化学検査機器5000へ更新(院内検査12項目へ増加)・輸血情報

### <反省>

平成25年度臨床検査適正化委員会で提供した臨床検査情報について上記に示しましたが、これからも役に立つ情報を提供出来るように努めていきたいと思っております。

### <今後の課題>

時間外に検査をしていただいた検査項目の依頼(コスト)漏れや結果が検査室になかったりすることがあるため、同じことを何度もお願いするかもしれませんが指導していきたいと思っております。これからもこの委員会を通して検査室と各部署が円滑に業務遂行出来るように、また医局に対しては、前年度と同様に保険点数上問題がある項目や院内検査で依頼件数が減少して、試薬がムダになっている項目について情報提供していきたいと思っております。

## 褥瘡委員会

### <目的>

褥瘡の発生予防と早期治療を目指して活動する

### <開催日>

第4火曜日

### <構成メンバー>

医師・栄養科・外来看護師・(4階・5階・6階)副師長

### <活動内容>

- 1、皮膚の観察と毎日の陰臀部洗浄とその指導
- 2、患者さんに適した体圧分散寝具の選択（毎月各病棟で使用状況管理）
- 3、褥瘡診療計画書の作成  
B・Cランクの患者さんに対し、リスクのチェックと計画書の作成  
（月1回の見直しと再計画）
- 4、褥瘡の計測  
（月1回のDESIGN-Rに沿って計測する）
- 5、年2回の院内勉強会の開催（全職員参加）
- 6、院外研修参加・発表
- 7、褥瘡マニュアルの見直し

### <反省と今後の課題>

今年度は褥瘡の院内発生がありました。次年度は、患者さんの状況をより細かく把握し、患者さんに合ったマットレスの選択やポジショニングの指導を行い、他部署間連携を密にし、褥瘡の院内発生の予防に努めます。

### <平成25年度褥瘡発生状況>

院内発生 20件

院外発生 19件

## 教育委員会

### <目的>

青雲会職員として資質を高めるとともに、技術の向上及び充実を図る為にも計画的に教育活動を実施します

### <開催日>

毎月第1木曜日

### <構成メンバー>

副院長 医療安全管理対策室長 管理部長 総務課 医事課 外来看護師  
病棟看護師 リハビリテーション部 薬局長 臨床検査技師 放射線科長  
管理栄養士

### <活動内容>

- ① 院内勉強会(毎月1回)…院内外の講師が1時間程度の勉強会を実施
- ② 症例研究会…医局、看護部(外来・4階・5階・6階)、栄養管理室、リハビリテーション部、医事課、青雲荘による研究内容発表と鹿児島大学医歯学総合研究科地域医療学分野大脇哲洋先生による特別講演

### <反省・今後の課題>

毎月の活動内容については、各部署の協力によりスムーズにいきました。また勤務の都合で出席できなかった職員に対し、ビデオによる勉強会を別日に設け勉強会の充実を図りました。

## 減点コスト漏れ対策委員会

### <目的>

- ① 社会保険診療報酬支払基金・国民健康保険団体連合会・各保険者等からの査定・減点を検討し、その対策を立て、査定・減点を少なくする。
- ② 算定漏れのないように関係各部署と連携を測る。

### <構成メンバー>

医局	医師
看護部	外来師長 各病棟師長
医事課	医事課長 医事課職員

### <開催日>

月1回（第3木曜日）

### <活動内容>

- ① 医事課担当者による査定・減点内容の調査
- ② 減点対策委員会における原因の究明
- ③ 医局会議における報告と対応の検討
- ④ 再審査請求対象に対する手続き
- ⑤ 医事課職員への報告及び教育による業務へのフィードバック
- ⑥ 各部署のコスト漏れ原因と対策の報告

### <今後の反省・課題>

年々、査定が厳しくなっているのを感じます。DPC 病院の増加も一因かと推察します。厳しい財政状況の中、出来高部分の査定はますます厳しくなるものと思われます。医事課職員の専門知識の向上を図っていきます。医局を含めた各部署との連携を図りながら、コストもれ、査定減に努めていきます。次年度より DPC 算定病院となりますので、コスト漏れには十分注意し、正確なデータを提出していきます。

## NST委員会

### <目的>

- ・適切な栄養管理法の選択  
(中心静脈栄養法の各種栄養療法の適応の遵守)
- ・適切かつ質の高い栄養管理の提供  
(適正投与エネルギーや投与栄養成分の決定)
- ・早期栄養障害の発見と早期栄養法の開始
- ・栄養療法による合併症の予防

### <開催日>

毎月第4木曜日

### <構成メンバー>

医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・言語聴覚士・理学療法士・作業療法士

### <活動内容>

- ・毎月1回NST勉強会実施
- ・毎週水曜日NST回診・ラウンド  
(平成25年度 新規介入者数161名 延べ介入者数422名)
- ・MNA評価、(栄養管理が必要か否かの判定)
- ・低栄養患者への栄養管理(適切な栄養管理が施行されているかのチェック)
- ・栄養療法による合併症の早期発見、早期対処

### <今後の課題>

MNA 簡易栄養状態評価表・栄養管理計画書をもとに低栄養患者さんが適切に栄養管理を施行されているか判定し栄養サポートを行います。

NST委員だけでなく、スタッフが患者の栄養に対して適切なケアが行えるようレベルアップを図ります。

## 5S・コスト削減委員会

### <目的>

5S活動導入と経費に掛かるもの全般を考察しコスト削減を目的とする。

### <開催日>

毎月第3水曜日

### <構成メンバー>

総務部 看護部 リハビリテーション部 薬局 臨床検査科 放射線科 栄養科  
企画・地域連携室 青雲荘

### <活動内容>

5S導入により組織編成の検討  
ムリ・ムラ・ムダを無くし見える化の導入  
業者の見直し、価格の再検討依頼

### <一年を通して>

今年で4年経過しました。11月には埼玉で行われた全日本病院学会で当院のこれまでの取組みについて発表しました。5S活動・業務改善に力をいれる病院も多く、今後は当たり前の時代になってくると思います。

また、これまで青雲荘とは年1回だけ合同で行っていましたが、青雲会全体で5S意識を高める為に毎月合同で行いました。全体で取り組むことによって更に5Sに対する意識が芽生えました。15時50分になると青雲荘でも清掃の音楽が流れ一斉清掃が始まります。青雲荘にも5Sの必要性が浸透していると感じます。

来年度の目標は時間管理の徹底です。会議の時間・残業時間を見える化し、業務改善に取り組んでいきます。

## 看護部教育委員会

### <目的>

看護師としての知識・技術を高め、質向上に努める

### <開催日>

毎月第1水曜日

### <構成メンバー>

副院長兼看護部長 看護部所属長

### <活動内容>

毎月第2木曜日の17時45分から看護部勉強会の実施

医師による講義（心電図、化学療法、ERCP等）やステップ研修の実施

### <反省・今後の課題>

毎月の研修会は、各部署の協力によりスムーズにいきました。特にステップ1（入職時1年未満）は、基本的な看護技術から看護援助まで中身の濃い新人研修ができました。平成26年度は認定看護師の講義を計画したいです。

# 院内学術活動報告

## H25年度院内勉強会スケジュール

月	内容	担当	講師
4月	糖尿病セミナー	医事・総務	小野薬品工業
5月	在宅酸素治療	4階	
6月	感染管理	医事・総務	
7月	医療安全	5階	鹿児島市立病院 医療安全管理室長 植田みよ子様
8月	褥瘡	外来	
9月	救急	5階	
10月	労働安全	医事・総務	高崎顧問による講話
11月	褥瘡	リハ	
12月	講演会	医事・総務	愛甲顧問
1月	感染管理	外来	
2月	症例研究会	コメ・6階・総務	特別講演 鹿児島大学医歯学総合研究科 地域医療学分野 大脇哲洋 先生
3月	医療安全	5階	



## 医療法人 青雲会 症例研究会プログラム 2014

理事長挨拶 13:30～

**セッションⅠ** 13:35～14:20 座長 5階病棟 前畑 悦子

1. 手術室における指導係の役割と今後の課題

外来 看護師 野路由利子

2. 転倒・転落に対する看護師の意識調査からみた今後の課題

5階病棟 看護師 原園晃世、西寒水梨恵、末廣小耶加

3. 脳血管疾患における誤嚥性肺炎の予防に取り組んで

～口腔ケアジェルを使用して～ 4階病棟 看護師 山迫友美・安田友美・山口紀子

4. さらなるチーム医療強化を目指して

6階病棟 看護師 川路友子・津崎美佐

コメンテーター 医局長 松原照征

**セッションⅡ** 14:25～15:25 座長 放射線科 本中野 政隆

5. 在宅復帰強化型への取り組み

～維持・継続するための工夫や活動～

青雲荘 花野拓己

6. 電話対応コンクールに参加して

医事課 上高原麗子・内田好美

7. 脳卒中患者の着替え動作に関する作業療法の効果について

リハビリテーション部 作業療法士 水谷麻穂

8. 簡易栄養状態評価（MNA）と予後の関係について

栄養管理室 管理栄養士 森田由佳

9. 当院における超高齢者手術

外科医師 平田 晋吾

コメンテーター 院長 島内 正樹

**特別講演** 15:30～16:15 座長 顧問 愛甲 孝 先生

### 『地域枠制度と総合診療医専門医制度』

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 地域医療学分野  
教授 大脇 哲洋 先生

# 青雲会活動報告

## クラブ活動

平成 25 年度看護部研修参加一覧

日程	研修名	参加人数
6月21日～ 6月23日	日本透析医学会学術集会	1名
7月7日	看護必要度	5名
8月31日	急性期医療における認識	1名
9月28日	看護が見える看護記録	1名
10月3日～ 10月5日	医療安全管理者研修	1名
10月10日	看護師に求められるマネジメントスキル	2名
10月12日	摂食、嚥下障害のある患者の看護	1名
10月12日	鹿児島がん看護研究会集中講座	1名
10月16日	看護補助者の育成と活用	2名
10月23日	メンタルヘルス対策	1名
10月26日	手術室の感染	5名
11月4日	感染対策について	1名
11月13日	医療あんぜんワークショップ	2名
11月14日～ 11月15日	生活をつなぐ退院支援	2名
11月24日	人工透析研究会	1名
11月30日	ネスレヘルスサイエンスカンパニー共催 研修会	1名
12月3日	コーチング	1名
12月14日	診療報酬改定2014	1名
1月29日	ワークライフバランスフォローアップ研修	1名
1月30日	医療経営セミナー	1名
2月8日	医療安全管理者研修	1名

平成 25 年度看護学生臨地実習受け入れ

学校名 (学年)		受け入れ人数
鳳凰高等学校看護学科専門課程	1 年生	7 名
	2 年生	36 名
龍桜高等学校看護学科専門課程	2 年生	12 名
鹿児島医療福祉専門学校	1 年生	20 名
	2 年生	17 名
	3 年生	37 名
たちばな医療専門学校	2 年生	14 名
	3 年生	4 名
鹿児島医療センター 附属鹿児島看護学校	2 年生	42 名

## リハビリテーション部2013年度学術活動

### リハビリテーション部内の研修の状況

H24年度 院内学術部 組織構成と運営スケジュール

- 各グループ単位での勉強会運営について  
PT: 中迫・河村 OT: 鈴木・片野 ST: 郡山がグループリーダー。ビデオ発表・勉強会の企画・運営各月、リハビリ部の各主任が持ち回りでアドバイザーとして勉強会に参加し、助言や指導を行う。各グループのビデオ発表は月1回、各グループの勉強会は月1回
- 各班での勉強会運営について  
リハビリ部各班の責任者の指導の下、ケーススタディの開催、勉強会の企画・運営を行う。各班の勉強会は月1回、各班のケーススタディは月2回
- 責任者での勉強会運営について  
責任者向けの勉強会 第1,3火曜日12:10～12:40
- リハビリ部全体の勉強会運営について  
院内学術部が指揮のもとヒューマンムーブメント(動作分析学習会)・症例検討会の運営を行う。全体症例検討会は前月の各グループ単位での症例発表の中から代表を選出。ヒューマンムーブメントは、各グループが年2回づつ計10回。内容の動作における構成要素の抽出、実際のモデルにおける評価・問題点・治療場面の提示。
- 毎週木曜に全体にてハンドリング研修会を実施
- 他新人教育、学会発表準備など、随時

### 院外における学会・研修会における学術発表

演題発表	筆頭演者	学会名	演題
2013年9月12日	小原 裕一	鹿児島県ボバース研究会	ワレンベルグ症候群症例に対するバランスへの介入
2013年11月23日	野元 美果	始良霧島地区NST研究会	青雲式簡易嚥下スクリーニングテストを用いた誤嚥防止への取り組み第二報
2013年11月23日	橋本 樹里	リハビリテーション・ケア合同学会・千葉	脳卒中発症3年経過した、ADL非実用手(麻痺側上肢)への作業療法的介入の試み
2013年11月23日	野元 美果	リハビリテーション・ケア合同学会・千葉	経口摂取に向けた、青雲式簡易嚥下スクリーニングテストを用いた誤嚥防止への取り組み
2013年11月24日	内木場 晴宣	理学療法士作業療法士九州合同学会・熊本	起き上がり動作時上肢使用と歩行バランスとの関係～歩行バランス低下を見出す指標についての研究
2013年11月24日	杉田 美沙都	理学療法士作業療法士九州合同学会・熊本	重度な感覚障害と痙性を呈した腰椎椎間板ヘルニア患者に対する理学療法一歩行バランスの改善と歩行効率の向上を目指して一
2013年12月1日	久保 郁美	鹿児島県理学療法士会 始良ブロック研修会	症例検討・廃用症候群症例
2014年1月12日	當房 里奈	鹿児島県 リハビリテーション看護研究会	脳卒中片麻痺患者の到達運動における理学療法的介入
2014年1月12日	上箆 由佳	鹿児島県 リハビリテーション看護研究会	視床性失調患者に対する歩行への
2014年2月16日	時任 和樹	鹿児島県理学療法士会学会	病前に足部機能低下を有し、脳幹出血により歩行能力低下を呈した症例に対する治療の一考察
2014年3月16日	橋本 樹里	鹿児島県作業療法士会学会	脳卒中発症3年経過した、ADL非実用手(麻痺側上肢)への作業療法的介入の試み
2014年3月16日	日高 正太	鹿児島県作業療法士会学会	脳卒中片麻痺症例のIADL動作に対する介入
2014年3月16日	井上 勇人	鹿児島県作業療法士会学会	脳卒中片麻痺患者に対する自動者運転の検討

## 院外向け研修会

2013年度成人ボバースアプローチ認定基礎講習会

講師:

Course Leader: 紀伊克昌 (IBITAシニアインストラクター・森之宮病院名誉副院長・PT)

Co-Leader: 土井鋭二郎 (IBITA基礎講習会インストラクター ボバース記念病院・PT)

林 克樹 (IBITA基礎講習会インストラクター 誠愛リハビリテーション病院・OT)

Assistant: 前田昭宏 (インストラクター候補者 青雲会病院PT)

日時: [前半] 2013年7月14日 (日) ~ 7月24日 (水)

[後半] 2013年10月14日 (月) ~ 10月18日 (金)

院内受講生を含めて、全国からも参加者が集まり、計24名にて実施されました。

## 他・院外向け講習会

IBITA認定国際インストラクターを招待し、本院で講習会を実施。

各講習会に九州地区を中心に約30~40人のセラピストが参加。

日付	講師名	講師所属	事務局
5月18日	土井 鋭二郎	ボバース記念病院	國生・上籠・日高(正)・堀之内・鎌田
5月25日26日	林 克樹	誠愛リハビリテーション病院	松尾・立川・水谷・酒井・永倉
6月4日~6日	小野 剛	森之宮病院	河村・日高係長・當房・鈴木・小原・ 下村・奥村・増森
6月7日~9日	小野 剛		
6月29日	土井 鋭二郎	ボバース記念病院	石堂・杉田・橋本・田畑
7月6日7日	弓岡 光徳	宝塚医療大学	秦・坂口・加藤・柗野・森
8月10日11日	林 克樹	誠愛リハビリテーション病院	内木場、各主任
9月14日15日	土井 鋭二郎	ボバース記念病院	松尾・當房・水谷・浅岡・柏木
10月5日6日	弓岡・赤松	宝塚医療大学 誠愛リハビリテーション病院	主任・浅岡・服部
10月	古澤 正道	ボバース記念病院	内木場・小原・杉田・田上・時任
11月9日10日	土井 鋭二郎	ボバース記念病院	中迫・日高(正)・奥村・吉満・久保
12月14日15日	林 克樹	誠愛リハビリテーション病院	秦・坂口・加藤・柗野・立川・下村・森
1月25日26日	弓岡 光徳	宝塚医療大学	坂口・水谷(麻)・服部・森永
3月8日9日	林 克樹	誠愛リハビリテーション病院	鈴木・水谷(由)・柗野・田畑

## 鹿児島県ボバース研究会

【会場】

青雲会病院 3階リハビリテーション室 無料

【日時】

毎月第2木曜日 (19:30~21:00)

日程	講師所属	内容
4月11日	クオラリハビリテーション病院	Bobath conceptとは? 評価・治療の考え方~導入編~
5月9日	霧島リハビリテーション病院	治療時の触り方、促通の考え方
6月13日	青雲会病院	片麻痺患者のバランス戦略の特徴と
8月		夏休み
9月12日	厚地リハビリテーション病院	症例検討/実技紹介
10月10日	クオラリハビリテーション病院	アドバンスコース伝達
11月14日	青雲会病院	症例検討/実技紹介
12月12日	青雲会病院	症例検討/実技紹介
1月9日	青雲会病院	症例検討/実技紹介
2月13日	青雲会病院	症例検討/実技紹介
3月13日	クオラリハビリテーション病院あいら	症例検討/実技紹介

## 平成 25 年度 中・高校生の体験学習

担当 小鯛 ゆかり

### <目的>

1. 働くことの意義や職業に対する意識を高め、正しい職業観・勤労観を身につかせる。
2. 職場で働く人々と接することで人間関係の大切さ、生きていく上での必要な資質を高める。

### <学校名>

1. 蒲生高校	2 年生	4 名 (1 回目) + 4 名・1 年生 (2 回目)
2. 国分中央高校	2 年生	1 名
3. 吉田北中学校	3 年生	1 名
4. 蒲生中学校	2 年生	2 名
5. 重富中学校	3 年生	6 名
6. 帖佐中学校	3 年生	7 名

### <学生の感想>

(中学校 3 年生)

3 日間、貴重な体験をさせてもらいありがとうございました。最初、病院は看護師が主に働いているのだと思いましたが、色々な専門知識、技術をもった方がいて病院はチームで働いている事が良く分かりました。病院は 1 人の患者さんに色々な専門職種の方が患者さんを支えていると思いました。

(高校 1 年生)

病院には、自分が思っていた以上の方々が深く関わり合い、助け合っているということ、今回の職場体験で青雲会病院を選び、来ることができて本当に良かったと思いました。改めて将来は、医療関係の職業に就きたいと思いました。

## バレー部

私たち青雲会バレー部は『楽しく』をモットーに活動しております。バレー好きな方を中心に、年齢・職種を問わず病院内の様々な方とコミュニケーションを図っております。

近年は更に力を入れており、部員数や練習期間も増え、活性化しています。前回の霧島・始良地区バレーボール大会では優勝、KHPカップでは、準優勝と大健闘しました。次の大会も良い成績を収められる様、一致団結して頑張りたいと思います。

また、練習以外でも、定期的な飲み会や夏にはバーベキューなど行い親睦を深めております。

練習日：毎週金曜日 20：00～22:00

場所：重富中学校体育館

出場大会：KHPカップ（年2回） H26（上半期）：準優勝

霧島・始良地区バレーボール大会 H26：優勝

---

## 青雲ランナーズ

私たち、青雲ランナーズは、ランニングを通して、仕事とは一味違った充実感や達成感を味わい、1年間楽しく活動を行っています。走る事が苦手な方もたくさんいますが、個人でマイペースに練習を行っています。また、今年は、チーム合同の練習も取り組んでいきたいと考えております。菜の花マラソン前は、懇親会などで、様々な職種の方と交流を深める機会もあります。

参加大会：指宿菜の花マラソン

加治木駅伝

縄文の森駅伝

## Ⅱ 関連施設

## 平成25年度介護老人保健施設青雲荘運営報告

青雲荘 施設長 川崎 雄三

青雲荘は平成16年に開設して、今年で10周年を迎えました。当初、老健施設で働いた経験者も少なく、まさに「0」からのスタートでありましたが数々の困難を乗り越えて今や始良地区の中堅的施設になったと言っても過言ではないでしょう。

青雲会のブランド「接遇」を力として今後も理想とする老健施設作りに励みたいと思います。以下の青雲荘の理念は、今後何十年経過しても変わるものではありません。

① 青雲荘は非日常を提供する施設であります。

非日常とは、利用者に感動してもらう「生きてて良かった」と喜んでもらう特別なおもてなしを指します。

② 青雲荘は、優しい風土を継続します。

組織が統制され、優しく明るい元気な職員の集団です。このような気持ちで毎日利用者に接していきたいと思います。

1年間の青雲荘の動きを振り返り、今後の方向性を検討してみます。

入所部：在宅強化型施設基準を平成25年7月から取得することができました。算定要件である①在宅復帰率が51～62%を維持。②ベット回転率は11%前後を維持。③重度者（胃瘻者）の割合11.5%前後で予想以上の数値が維持されたことは、相談員やケアマネージャーの貢献度が大きいと感謝しています。その苦労話は相談員が県老健大会において発表しました。現在の問題点は、想定されたことではありますがベット稼働率が大幅に低下（平均稼働率：97.3%、利用者数：前年度よりマイナス328人）したことです。稼働率向上対策としては家族の多岐にわたる要望に丁寧に対応しショート利用者数を増やすことと、営業による新規利用者の獲得の必要性があると考えています。

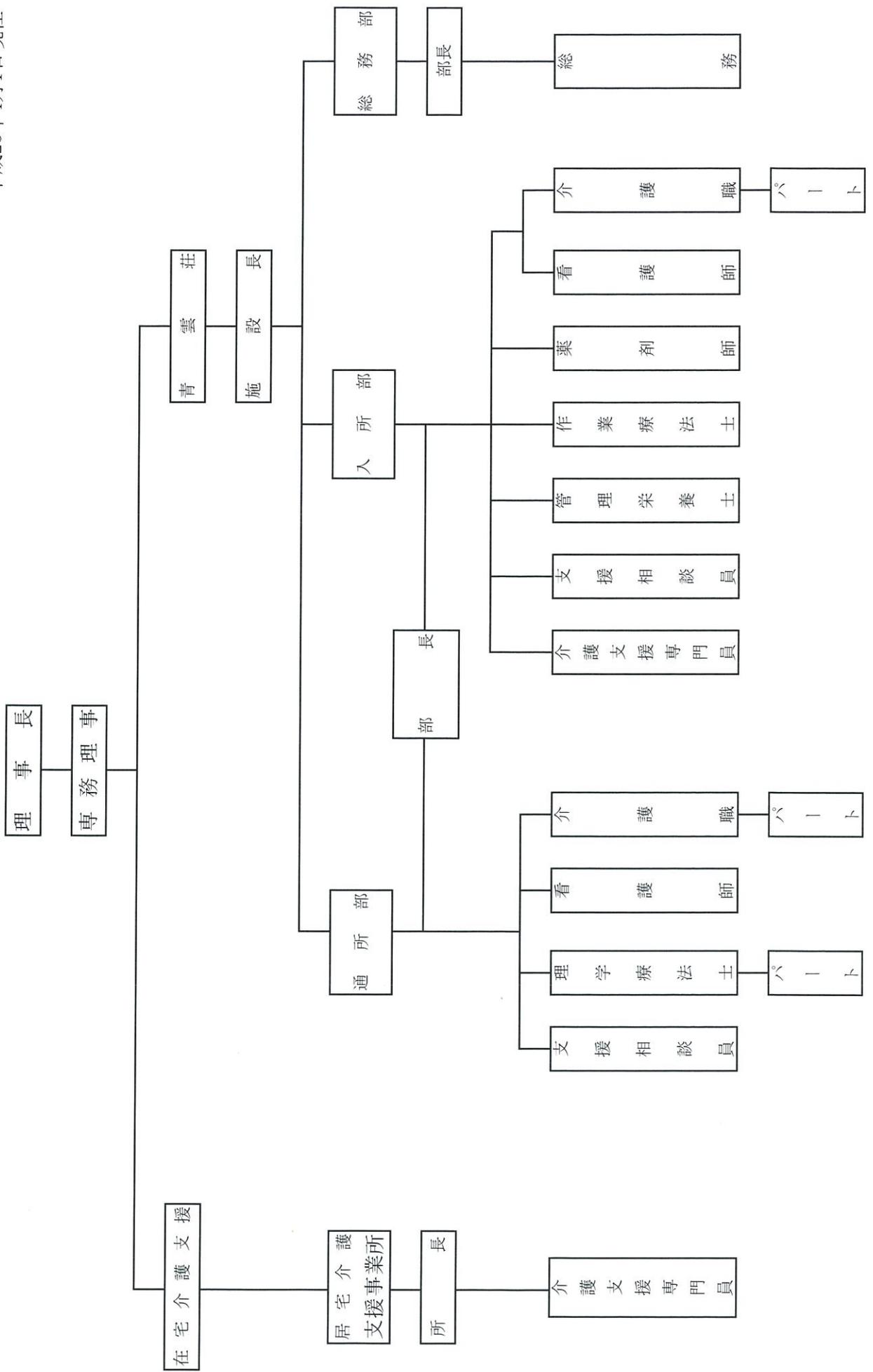
もう一つ新たに開始した業務は「看取り」です。超高齢者入所者の割合が年毎に増加し、アンケート調査でも施設での看取りを希望する家族が増えてきました。8月から開始し、すでに3人の看取りを行いました。その全ての家族から感謝されたので方向性は間違っていないと考えます。今後も、施設における看取りのあるべき姿をスタッフと話し合いながら検討していきたいです。

通所部：この数年間は利用者数が減少の一途をたどりましたが、平成25年度は好転し前年度よりプラス163人となりました。職員が一致団結して仕事に取り組んだ事が一番の要因だと思います。また老朽化した送迎バスが平成26年度には新車に交換される事や、リハビリスタッフの充実化を図り通所リハは、今後ますます発展して行くと期待しています。

老健施設は「一致団結」と「多職種共働」で、その実力が発揮されます。そのためには組織が統制されなければなりません。就業規則の厳守を改めて皆と一緒に誓い、日々の職務に励みたいと思います。

# 介護老人保健施設 青雲荘 組織図

平成25年4月1日現在



## 居宅介護支援事業所 青雲

管理者 城戸美哉子

### (総合目標)

「仲良き事は素晴らしい、理想を忘れず楽しくしょう」

### (居宅の目標)

「地域と事業所との情報交換を行い支援体制を作る。」

### (業務内容)

- ・利用者やその家族のニーズを把握し、安心して在宅生活を送れる様にサービスの調整などの支援を行う。
- ・医療機関や介護施設との連携を行い、退院や退所後も継続してサービスが受けられる様に支援を行う。
- ・介護保険での業務をきちんと行い、他事業所と連携を行う。
- ・ケアマネの資質向上を目指し、研修会などに参加する。
- ・利用者数を増やし、利益の向上に努める。

### (結果・評価)

25年度の総支援数は増加しましたが、ADLが向上した事で要介護から要支援へと移行し包括支援センターからの委託件数が増えています。しかし利用者からは同じケアマネでの支援が継続出来る事で安心して相談が出来ると信頼を頂きました。また包括支援センターから認知症や在宅で問題のある方などの困難ケースの依頼も受けいろいろな方々と連携を行いながら在宅支援に努力しております。

### (今後の目標)

- ・行政や事業所と連携を行い独居や認知症の方でも安心して在宅で生活を送れる様に地域とのネットワーク作りを行っていきたいと思います。
- ・サービス提供だけでなく、利用者や家族が生きがいのある生活を送れるためのお手伝い出来る様に努力して行きたいと思います。

### (活動状況)

\* 25年度の登録数～要介護・要支援・新規

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護	89	94	92	93	95	85	89	87	82	86	83	86	1061
支援	22	21	20	22	20	23	25	22	22	25	28	28	278
新規	3	5	4	7	6	1	6	8	2	5	9	6	62

## 青雲荘入所部

部長 井手まゆみ

### <青雲荘目標>

仲良きことは素晴らしい、理想を忘れず楽しくしよう

### <入所部目標>

心を一つに仲良きチームワークで介護を紡ぐ

### <活動内容>

介護老人保健施設の特徴である多職種による、多機能の発揮

1 在宅復帰強化型への取り組み

2 看取り支援への取り組み

### <結果・評価>

1 に対して平成25年6月から在宅復帰強化型を算定しており現在も継続中です。相談員、ケアマネージャーは元より全多職種の共働無くしての継続はないと思います。多職種共同による取り組みを評価出来ると思います。

2 に対して介護老人保健施設の多機能性への注目、地域・行政の要望の高まりを受け、リピーターとして青雲荘を長きにご利用され信頼関係の構築がされているご家族を対象に見取り支援を開始しました。

平成25年度は3件の見取り支援を行い、ご家族に大変感謝されました多機能（専門性）が発揮された活動と評価できると思います。

### <今後の課題>

在宅復帰強化型に関しては、算定要件のクリアー・稼働率の低下という、問題があります。問題解決策の一つとして、今後更に多くの利用者

（ショートを含む）に利用して頂けるように、各専門職が自分の役割を再認識し、意思統一を図っていく事が必要だと思えます。

## 青雲荘 通所部

主任 酒井 真由美

### 《総合目標》

「仲良き事は素晴らしい、理想を忘れず努力しよう」

### 《平成 25 年度 通所部目標》

「いつも心に太陽を」

### 《活動・業務内容》

サービス計画書の作成・食事・入浴・排泄介助・健康チェック・相談及び援助・送迎・レクリエーション・リハビリテーション。

関係市役所、地域の保険・医療・福祉サービスとの連携を図り総合的なサービスの提供に努め、要介護・支援者の心身の特徴を踏まえた全体的な日常生活動作の維持・回復を図るとともに生活の質の確保を重視した在宅療養が継続出来る様に支援していくよう努めています。

### 《活動状況》

H24 年度に行った業務改善の継続が定着しているため、利用者人数の増加につながり、送迎車を 3 台新しくすることが出来ました。また通所部専属のリハビリ職員も入り、今後の通所リハビリ（要支援者も含め）の充実を図っていく予定です。

月平均では 1 日 30 名弱の利用者でした。

### 《今後の課題》

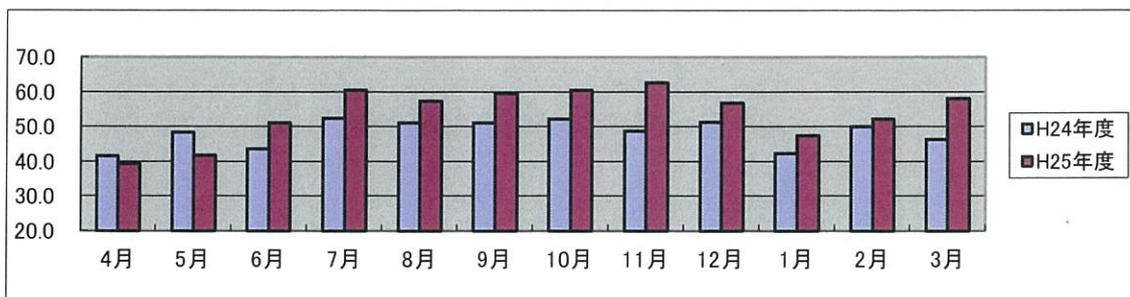
他職種間との連携、特にリハビリとの連携を図り今後利用者が在宅で安心して過ごせる必要な日常生活動作訓練に力を入れ、生活リハビリの充実を図りたいと思います。

明るく笑顔で 1 日の終わりに利用者が元気になって自宅に戻れるよう、またご家族が心身共に良い状態で家族の介助が出来る様支えていきたいと思っています。

## 平成25年度 入所部

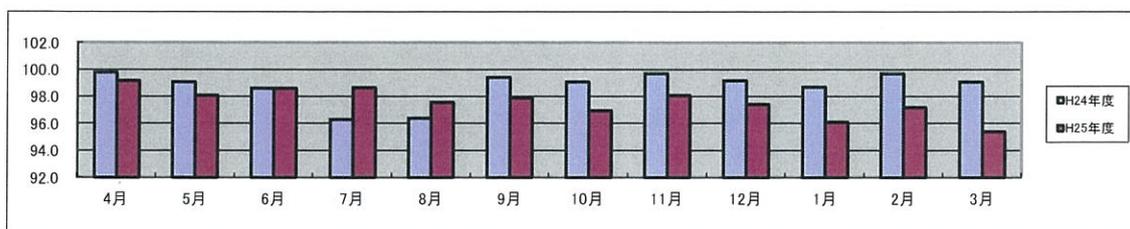
### 在宅復帰率(%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H24年度	41.6	48.5	43.6	52.4	51.2	51.2	52.3	48.7	51.4	42.4	50.0	46.3
H25年度	39.5	41.9	51.2	60.4	57.5	59.5	60.5	62.8	56.8	47.5	52.3	58.1



### ベッド稼働率(%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H24年度	99.8	99.1	98.6	96.3	96.4	99.4	99.1	99.7	99.2	98.7	99.7	99.1
H25年度	99.2	98.1	98.6	98.7	97.6	97.9	97.0	98.1	97.4	96.1	97.2	95.4



1日平均    2.4床の空床

### 入所(人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H23年度	8	6	7	14	3	10	5	9	5	6	4	6
H24年度	9	7	4	7	7	8	9	3	7	4	6	9
H25年度	8	8	8	6	9	6	11	10	6	8	5	8

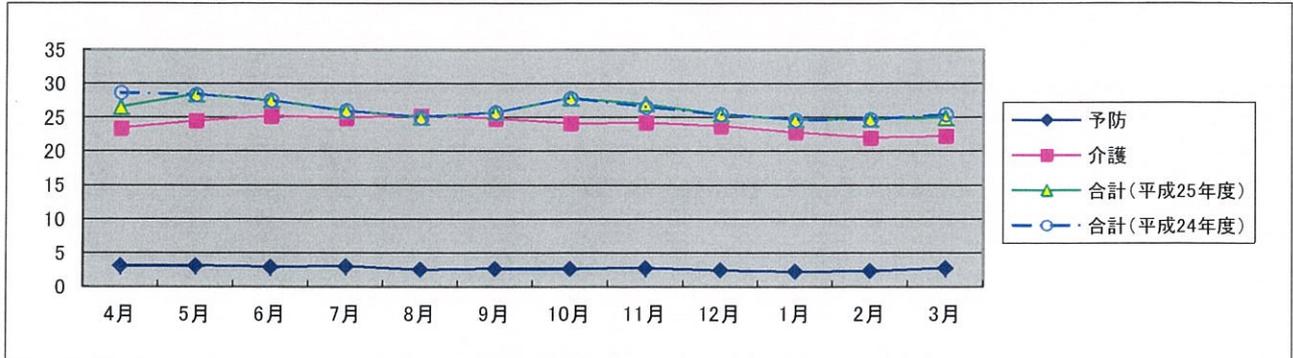
### 退所(人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H23年度	9	5	7	12	3	10	8	9	5	4	5	6
H24年度	8	7	9	7	2	8	11	4	5	3	7	11
H25年度	8	9	5	10	8	6	10	8	9	4	12	6

## 平成25年度 通所部

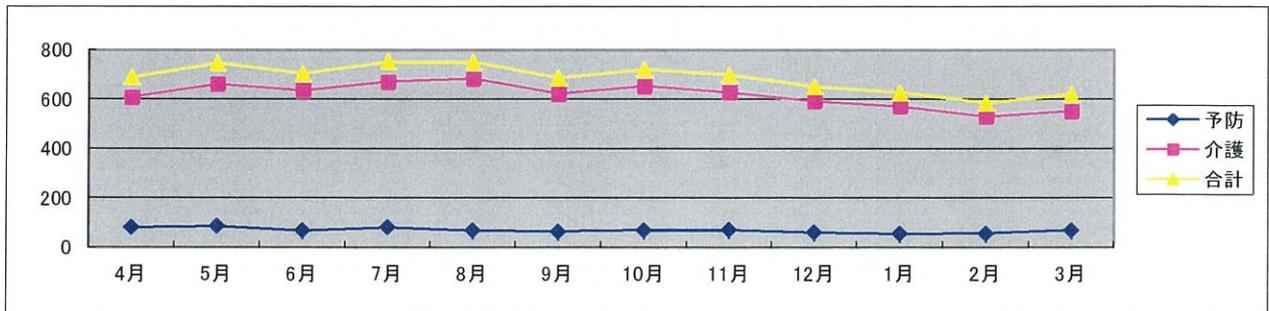
1日平均

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
予防	3.1	3.1	2.9	3	2.5	2.6	2.6	2.7	2.4	2.2	2.3	2.7
介護	23.4	24.5	25.2	24.9	25.3	24.8	24.1	24.2	23.7	22.8	22	22.2
合計(平成25年度)	26.5	28.4	27.5	26	25	25.7	27.8	26.9	25.4	24.6	24.7	24.9
合計(平成24年度)	28.6	28.4	27.5	26	25	25.7	27.8	26.5	25.4	24.6	24.7	25.4



利用者延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予防	81	85	68	81	67	64	69	70	60	55	56	69	825
介護	608	661	635	670	683	621	652	628	591	571	529	551	7400
合計	689	746	703	751	750	685	721	698	651	626	585	620	8225



登録利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
予防	16	13	13	13	14	13	11	12	12	11	13	14
介護	61	66	65	64	61	58	58	60	58	60	60	62
合計	77	79	78	77	75	71	69	72	70	71	73	76

## 青雲荘 総務課

総務部長 畠中 泰教

### 《総合目標に対する取り組みと反省》

「仲良き事は素晴らしい、理想を忘れず努力しよう」

総合目標を毎朝唱和していたおかげで部署内に活気が出たうえ、お互いに声掛けして 協力し合える体制がさらに強化されました。

### 《平成 25 年度総務部の目標に対する取り組みと反省》

「職員からありがとうと言われる総務課」

各部署からの要望に対して迅速に対応するよう取り組みました。現場に負担がかからないよう総務課内での情報の共有化を図りました。

相手の立場で行動したことで、平成 25 年度の接遇表彰を総務課としていただくことが出来ました。今後も見本となれるよう努力します。

### 《業務内容》

施設基準の管理、関係諸官庁への届出、設備管理、委託業者管理、廃棄物管理、保険に関する事項、老健協会に関する事項、未収金管理、選挙管理、人事労務管理、契約管理、公印管理、慶弔関係、防火・防災・防犯に関する事項

### 《活動状況》

職員の入れ替わりがあり一時業務がスムーズにいかないときもありましたが、年度末頃にはある程度予定通り業務遂行できるようになりました。介護報酬加算に関する取り組みも協力をもらいながら無事届出しました。

### 《今後の課題》

介護保険に関する知識の向上はもちろん、これからの介護についての方向性など情報収集にも取り組み、これからも安定した経営が出来るよう努力する。所属長が病院兼務の為、情報の共有化ということでは、これからも総務課日誌に細かな報告事項を記載していきます。来年度は、青雲荘の事務作業の時間を増やして顔を見合わせて話し合いが出来るよう改善に取り組みます。

## 編集後記

平成 25 年度青雲会病院年報を作成するにあたり、多くの皆様にご協力を頂いた事を感謝いたします。

診療科・各所属の1年の反省と今後の課題をまとめていただきました。この年報を見て下さった皆様に、青雲会のことがよく分かるように仕上げました。

職員は、昨年度を振り返り、今年度の活動に活かせるように努力いたします。

今後も充実させより良い年報を残したいと考えております。ご要望やご意見がありましたらお知らせ下さいませ。



何か 世の為 人の為

2013年度  
医療法人青雲会年報

平成26年7月14日発行

編集発行 医療法人青雲会

〒899-5431

鹿児島県始良市西餅田3011

TEL 0995-66-3080